高原町文化財調査報告書　第20集

川路山遺跡

県営畑地帯総合整備事業（担手支援）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書（5）

２０２０年３月

宮崎県西諸県郡
高原町教育委員会

序　文

本書は、県営畑地帯総合整備事業（担手支援）に伴い、宮崎県西諸県農林振興局から委託を受け、高原町教育委員会が行った川路山遺跡発掘調査の調査報告書です。

高原町は霊峰高千穂峰をいただく、神話と歴史に溢れた町です。特に「高原」という地名は、「高天原」から転化したと言われており、町内各所に神話にまつわる地名が残されています。また高原町は初代天皇である神武天皇の御降誕地であり、若年期に過ごされたという伝承をもつ場所としても名高い町であります。

高原町教育委員会では、畑地帯総合整備事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査を平成 27 年度から実施しており、鹿児山 1 期地区畑地帯灌漑事業に伴う目ノ崎第 1 遺跡の発掘調査では、これまで高原町内では出土例のなかった縄文時代早期の集石遺構などが見つかっています。

平成 28 年度に実施したこの川路山遺跡についても、縄文時代早期、前期の遺物・遺構が見つかっています。

今回の調査で得た様々な成果が、学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助になることを期待しています。

最後になりますが、この発掘調査及び整理作業にあたり、多大なる御理解と御協力をいただきました、土地所有者の方や周辺住民の方々をはじめ、御指導・御援助をいただきました関係諸機関の方々に心から御礼を申し上げます。

令和２年３月

高原町教育委員会
教育長　西田　次良

例　　言

1　本報告書は、平成 28 年度に実施した後川内地区における平成 28 年度畑地帯総合整備事業（担手支援）に伴う川路山遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡は宮崎県西諸県郡高原町大字後川内字川路山に所在する。

3　当遺跡の発掘調査及び報告書作成のための整理作業、執筆については宮崎県西諸県農林振興局農村整備課の委託を受けて、高原町教育委員会が主体となって実施した。

4　当遺跡の発掘調査については、宮崎県教育委員会文化財課の指導・助言を受けて、高原町教育委員会教育総務課社会教育係主任主事の玉谷鮎美及び発掘調査員の面高哲郎が担当した。発掘調査は平成 28 年 8 月 22 日から平成 29 年 5 月 24 日まで実施した。

5　現場における遺構実測は調査員及び作業員が行った。なお、遺構実測図の一部を有限会社ジパング・サーベイに委託した。

6　遺物の整理並びに報告書作成については、調査員及び作業員が整理作業室にて行った。なお、遺物の実測図作成およびトレースの一部を有限会社ジパング・サーベイに委託した。

7　本報告書で使用した遺物、遺構の写真撮影は玉谷、面高で行い、空中写真については九州航空株式会社に委託した。

8　本報告書で使用した出土炭化物の放射絵師炭素年代測定、樹種同定、種実同定、およびテフラ分析は株式会社古環境研究所に委託した。

9　本報告書で用いた標高は海抜高であり、方位はすべて磁北である。

10　本報告書で使用した記号は以下の通りである。
　SA…竪穴状遺構　SC…土坑　SI…集石遺構
　散石については、数mの範囲に礫が集中しているものを言い、集石遺構に付随するものを指している。

11　本報告書の執筆・編集は玉谷が行った。

12　発掘調査に伴って出土遺物とすべての記録については、高原町教育委員会で保管している。

13　発掘調査および報告書作成においては下記の方々に御指導、御助言いただきました。記して御礼申し上げます。
赤崎広志、秋成雅博、小畑弘己、金丸武司、柴畑光博、高橋信武、立神倫史、前迫亮一、松本　茂、
眞邉　彩、吉本正典　（敬称略 50 音順）

本文目次

第１章　序説
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査組織 …… 1
第３節　遺跡の立地と環境
1　高原町及び遺跡の地理的環境 …… 3
2　高原町及び遺跡の歴史的環境 …… 3
第４節　調査の概要及び経過 …… 7
第５節　遺跡の層序 …… 8

第２章　牛のスネ火山灰下部下の調査
第１節　遺物、遺構の分布状況 …… 10
第２節　遺構について …… 11
第３節　遺物について …… 32

第３章　牛のスネの調査
第１節　遺物、遺構の分布状況 …… 74
第２節　遺構について …… 74
第３節　遺物について …… 76

第４章　土層混在部の調査
第１節　遺物、遺構の分布状況 …… 78
第２節　遺物について …… 78

第５章　アカホヤ二次堆積層の調査
第１節　遺物、遺構の分布状況 …… 84
第２節　遺構について …… 84
第３節　遺物について …… 86

第６章　自然科学分析 …… 88

第７章　まとめ …… 147

挿図目次

第１図　周辺遺跡分布図 …… 3
第２図　遺跡位置図 …… 4
第３図　基本層序 …… 8
第４図　調査区削平状況及び基本層序位置図 …… 9
第５図　縄文時代早期遺構分布 …… 10
第６図　SA1 実測図 …… 11
第７図　SA2 実測図 …… 12
第８図　SA1・2 出土遺物実測図 …… 12
第９図　SC1・2 実測図 …… 13
第 10 図　SC3 ～ 6 実測図 …… 15
第 11 図　SC3・4 出土遺物実測図 …… 16
第 12 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図① …… 17
第 13 図　縄文時代早期検出集石遺構礫検出状況 …… 18
第 14 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図② …… 19
第 15 図　SI5 出土遺物実測図 …… 20
第 16 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図③ …… 21
第 17 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図④ …… 22
第 18 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図⑤ …… 23
第 19 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図⑥ …… 24
第 20 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図⑦ …… 25
第 21 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図⑧ …… 27
第 22 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図⑨ …… 28
第 23 図　縄文時代早期土器分布図 …… 32
第 24 図　縄文時代早期包含層出土土器① …… 33
第 25 図　縄文時代早期包含層出土土器② …… 34
第 26 図　縄文時代早期包含層出土土器③ …… 35
第 27 図　縄文時代早期包含層出土土器④ …… 36
第 28 図　縄文時代早期包含層出土土器⑤ …… 37
第 29 図　縄文時代早期包含層出土土器⑥ …… 38
第 30 図　縄文時代早期包含層出土土器⑦ …… 39
第 31 図　縄文時代早期包含層出土土器⑧ …… 40
第 32 図　縄文時代早期包含層出土土器⑨ …… 41
第 33 図　縄文時代早期包含層出土土器⑩ …… 42
第 34 図　縄文時代早期包含層出土土器⑪ …… 43
第 35 図　縄文時代早期包含層出土土器⑫ …… 44
第 36 図　縄文時代早期包含層出土土器⑬ …… 45
第 37 図　縄文早期遺物出土状況① …… 45
第 38 図　縄文時代早期包含層出土土器⑭ …… 46
第 39 図　縄文時代早期包含層出土土器⑮ …… 47
第 40 図　縄文時代早期包含層出土土器⑯ …… 48
第 41 図　縄文時代早期包含層出土土器⑰ …… 49
第 42 図　縄文時代早期包含層出土土器⑱ …… 50

第 43 図　縄文時代早期包含層出土土器⑲ …… 51
第 44 図　縄文時代早期包含層出土土器⑳ …… 52
第 45 図　縄文早期遺物出土状況② …… 53
第 46 図　縄文時代早期包含層出土土器㉑ …… 53
第 47 図　縄文時代早期包含層出土土器㉒ …… 54
第 48 図　縄文時代早期包含層出土土器㉓ …… 55
第 49 図　縄文時代早期包含層出土土器㉔ …… 56
第 50 図　縄文時代早期包含層石製品　種別別出土分布図 …… 57
第 51 図　縄文時代早期包含層剥片等　石材別出土分布図 …… 58
第 52 図　縄文時代早期包含層出土石器① …… 59
第 53 図　縄文時代早期包含層出土石器② …… 60
第 54 図　縄文時代早期包含層出土石器③ …… 61
第 55 図　縄文時代早期包含層出土石器④ …… 62
第 56 図　縄文時代早期包含層出土石器⑤ …… 63
第 57 図　縄文時代早期包含層出土石器⑥ …… 64
第 58 図　縄文時代早期包含層出土石器⑦ …… 65
第 59 図　縄文時代早期包含層出土石器⑧ …… 66
第 60 図　牛のスネ火山灰下部中遺構分布図 …… 74
第 61 図　牛のスネ火山灰下部中検出遺構実測図 …… 75
第 62 図　牛のスネ火山灰付着土器 …… 77
第 63 図　土器混在地区遺物出土状況 …… 78
第 64 図　土器混在地区遺物実測図① …… 79
第 65 図　土器混在地区遺物実測図② …… 80
第 66 図　土器混在地区出土石器① …… 81
第 67 図　土器混在地区出土石器② …… 82
第 68 図　アカホヤ火山灰二次堆積層上遺構分布図及び遺物分布図 …… 84
第 69 図　アカホヤ火山灰二次堆積層上検出遺構及び出土遺物実測図 …… 85
第 70 図　アカホヤ火山灰二次堆積層出土土器実測図 …… 86
第 71 図　アカホヤ火山灰二次堆積層出土石器実測図 …… 87

表目次

第 1 表　縄文早期包含層検出集石遺構計測表 …… 30
第 2 表　縄文早期遺構内出土土器観察表 …… 31
第 3 表　縄文早期遺構内出土石器観察表 …… 31
第 4 表　石鏃石材別分類表 …… 58
第 5 表　縄文時代早期包含層出土土器観察表 …… 67
第 6 表　縄文時代早期包含層出土石器観察表 …… 71
第 7 表　牛のスネ火山灰付着土器観察表 …… 76
第 8 表　土層混在部出土土器観察表 …… 83
第 9 図　土層混在部出土石器観察表 …… 83
第 10 図　アカホヤ火山灰二次堆積層検出遺構内出土遺物観察表 …… 86
第 11 図　アカホヤ火山灰二次堆積層出土土器観察表 …… 87
第 12 図　アカホヤ火山灰二次堆積層出土石器観察表 …… 87

図版目次

図版 1　調査区空中写真 …… 149
図版 2　基本層序 …… 150
図版 3　縄文早期遺構調査状況① …… 151
図版 4　縄文早期遺構調査状況② …… 152
図版 5　縄文早期遺構調査状況③ …… 153
図版 6　縄文早期遺構調査状況④ …… 154
図版 7　縄文早期遺構調査状況⑤ …… 155
図版 8　縄文時代早期遺構内出土遺物① …… 156
図版 9　縄文時代早期遺構内出土遺物② …… 157
図版 10　縄文時代早期遺構内出土遺物③ …… 158
図版 11　縄文時代早期遺構内出土遺物④ …… 159
図版 12　縄文時代早期包含層出土遺物⑤ …… 160
図版 13　縄文時代早期包含層出土遺物⑥ …… 161
図版 14　縄文時代早期包含層出土遺物⑦ …… 162
図版 15　縄文時代早期包含層出土遺物⑧ …… 163
図版 16　縄文時代早期包含層出土遺物⑨ …… 164
図版 17　縄文時代早期包含層出土遺物⑩ …… 165
図版 18　縄文時代早期包含層出土遺物⑪ …… 166
図版 19　縄文時代早期包含層出土遺物⑫ …… 167
図版 20　縄文時代早期包含層出土遺物⑬ …… 168
図版 21　縄文時代早期包含層出土遺物⑭ …… 169
図版 22　縄文時代早期包含層出土遺物⑮ …… 170
図版 23　縄文時代早期包含層出土遺物⑯ …… 171
図版 24　縄文時代早期包含層出土遺物⑰ …… 172
図版 25　縄文時代早期包含層出土遺物⑱ …… 173
図版 26　縄文時代早期包含層出土遺物⑲ …… 174
図版 27　縄文時代早期包含層出土土器・石器 …… 175
図版 28　縄文時代早期包含層出土石器① …… 176
図版 29　縄文時代早期包含層出土石器② …… 177
図版 30　縄文時代早期包含層出土石器及び攪乱内出土土器 …… 178
図版 31　牛のスネ火山灰下部内及びアカホヤ火山灰二次堆積層検出遺構調査状況 …… 179
図版 32　土層混在地区出土土器 …… 180
図版 33　土層混在地区出土土器② …… 181
図版 34　土層混在地区出土土器・アカホヤ二次堆積層遺構内出土遺物 …… 182
図版 35　アカホヤ二次堆積層出土遺物 …… 183

第１章　序説

第１節　調査に至る経緯

宮崎県西諸県郡高原町大字後川内字川路山地区では、平成25年度に平成28年度畑地帯総合整備事業（担手支援）が採択された。工事に伴い宮崎県文化財課は宮崎県西諸県農林振興局から文化財の所在の有無について照会を受けた。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、県文化財課が一帯の試掘・確認調査を実施したところ、事業実施計画によって切土となるいくつかの遺跡について発掘調査が必要であることが分かった。

その結果を受け、宮崎県西諸県農林振興局、県文化財課、高原町農政畜産課、町教育総務課で協議を行い、平成28年度に圃場整備事業実施計画によって１m以上切土となり削平される川路山遺跡の約4,800㎡について記録保存のための発掘調査を実施することとなった。調査期間は平成28年８月22日から平成29年５月24日までである。当初、平成29年３月27日で調査を終了する予定であったが、調査終盤になり遺構が多く検出されたことから、西諸県農林振興局と協議を行い、５月まで調査を延長した。

調査期間中には、後川内小学校を対象とした発掘体験や、生涯学習講座、発掘調査現地説明会を実施した。

第２節　調査組織

調査組織については下記の通りである。

平成28年度（発掘調査）

調査主体者　宮崎県高原町教育委員会
教育長　江田正和
教育総務課長　田上則昭
社会教育係長　中原圭一郎
社会教育係　主事　江南智玄（庶務担当）
調査担当者　社会教育係　主任主事　玉谷鮎美
社会教育係非常勤職員（発掘調査員）　而高哲郎
発掘作業員　池崎良夫　五田　悟　内村絹代　岡崎順子　奥　喜代司　神邉勝美
上村勝雄　上村恭子　川畑英春　窪田喜代子　小村俊男　佐伯生久子
正入木政喜　瀬戸口長経　竹下博志　竹之下民子　田中祐紀　田中幸吉
鶴田孝徳　原田賢雄　平川　博　松本タケ子　丸山修平　宮田加代子
村山保夫　山崎啓子　柳　桂子　湯舟玲子　吉元義秋　（50音順）
整理作業員　有田貴子　今西公実　梅本かよ子　瀬戸山美子　田中祐紀

平成29年度（整理作業）

調査主体者　宮崎県高原町教育委員会
教育長　江田正和
教育総務課長　田上則昭
社会教育係長　中原圭一郎
社会教育係　主任主事　新福竜太（庶務担当）
調査担当者　社会教育係　主任主事　玉谷鮎美
整理作業員　有田貴子　今西公実　梅本かよ子　瀬戸山美子　田中祐紀　福田稔

平成 30 年度（整理作業）
調査主体者　宮崎県高原町教育委員会
教育長　西田次良
教育総務課長　水町洋明
社会教育係長　中原圭一郎
社会教育係　主任主事　中村真琴（庶務担当）
主事　瀬戸口洋介（庶務担当）
調査担当者　社会教育係　主任主事　玉谷鮎美
社会教育係非常勤職員（発掘調査員）　竹中美智子
社会教育係非常勤職員（発掘調査補助員）　田中祐紀
整理作業員　有田貴子　今西公実　梅本かよ子　瀬戸山美子　福田稔

平成 31/ 令和元年度（整理作業）
調査主体者　宮崎県高原町教育委員会
教育長　西田次良
教育総務課長　水町洋明
社会教育係長　江田雅宏
社会教育係　主任主事　中別府宏貴（庶務担当）
主事　瀬戸口洋介（庶務担当）
調査担当者　社会教育係　主任主事　玉谷鮎美
社会教育係非常勤職員（発掘調査員）　竹中美智子
社会教育係非常勤職員（発掘調査補助員）　田中祐紀

調査指導　小畑弘己（熊本大学文学部）
高橋信武
松本　茂（宮崎県文化財課）
赤崎広志（宮崎県埋葬文化財センター分館）

調査協力　事業側　宮崎県西諸県郡農林振興局
農村整備課　農村整備担当　主査　古城潤（平成 28 ～ 30 年度）
主査　上坂大輔（平成 31 年度）
高原町農政畜産課（平成 28 ～ 30 年度）、農畜産振興課（平成 31 年度）
課長　末永恵治（平成 28 ～ 30 年度）
新福　小太郎（平成 31 年度）
農園畜産係長　石山拓磨（平成 28・29 年度）
農畜産振興係長　増田仁志（平成 30・31 年度）
農園畜産係主事　竹田善彦（平成 29 年度）
主任　金丸　隆（平成 30 年度）
主査　下村健一（平成 31 年度）

地権者　上村睦
地元協力　中別府裕二　上村　隆　上別府学　温水敏浩

第３節　遺跡の立地と環境

１　高原町及び遺跡の地理的環境

高原町は宮崎県の南西部に位置し、小林市、都城市、鹿児島県霧島市に隣接している。東西約 18 ｋｍ、南北約 10 ｋｍと東西に長く、面積は 85.39㎢である。韓国岳（標高 1,700 m）、新燃岳（1,421 m）中岳（1,332 m）、高千穂峰（1,574 m）等を中心とする霧島火山群の東麓に所在する。高原町の台地は火山灰により形成されたシラス台地上にある。シラスは約 29,000 年前に現在の鹿児島県の錦江湾付近（姶良カルデラ）から噴出した火山灰で「姶良丹沢（AT）火山灰」「姶良大隅軽石」「入戸火砕流堆積物」等で構成されており、その堆積は厚いところでは約 20 mにもなる。さらにその後も、霧島火山群から多種の火山灰が噴出し、霧島小林軽石、牛のすねローム下部、鬼界アカホヤ火山灰、牛のすねローム上部、御池軽石、高原スコリア（霧島大谷４～６テフラ）等が降下しており、高原町を覆っている。これらの火山灰は地層の年代を特定するための鍵層となっている。

遺跡周辺も入戸火砕流が堆積した台地上に立地しており、標高は約 191 ～ 195 mである。遺跡の南側には炭床川、北側にはシラス台地が生んだ谷があり、湧水点がある。周辺は後世の大規模な削平を受けており、元地形を残している箇所は少ないと思われる。川路山遺跡も大部分は削平されているが、今回の調査地は周辺より一段高い場所にあり、当時の遺跡を含む丘状地形の最も高いところを削って平らに均し、畑地にしていた。そのため、上部は削平を受けて残存していなかったが、傾斜地を中心として遺構が残されていた。

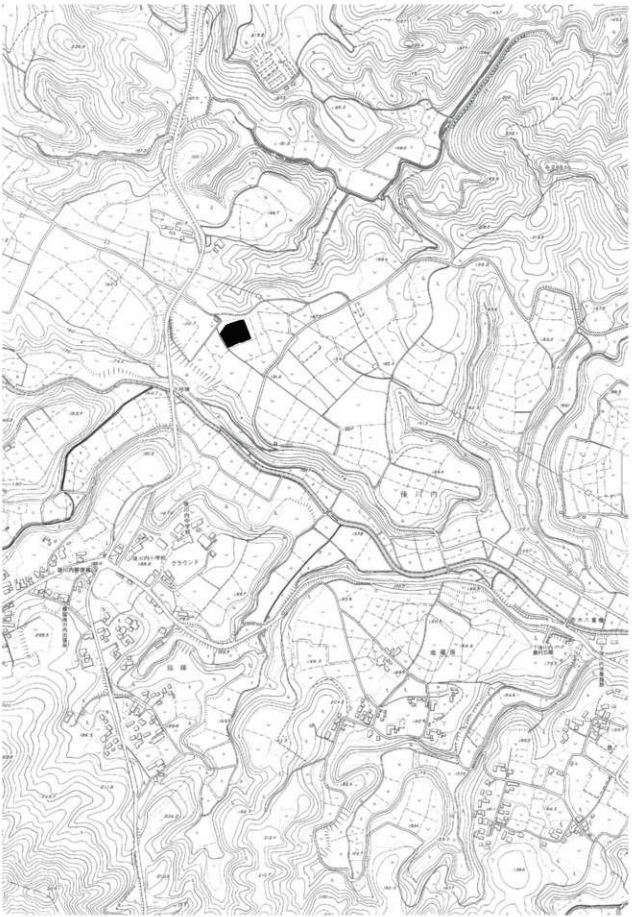
遺跡周辺には多くの遺跡が存在しているが、発掘調査が行われたのは川除遺跡と立切地下式横穴墓群のみである。後川内小学校屋内運動場建設に伴い調査された川除遺跡は、川路山遺跡から直線距離で約 630 m南南西に位置しており、古代の畝状遺構等が見つかっている。縄文時代の遺物も少量ではあるが見つかっており、姫島産黒曜石やチャートの石鏃、轟Ｂ式土器が出土している。

２　高原町及び遺跡の歴史的環境

高原町は、古くから天孫降臨の地、神武天皇御降誕の地として認識されている。高千穂の峰の山頂には

１　川路山遺跡　２　井ノ原遺跡　３　赤木八重遺跡　４　植木塚遺跡　５　川除遺跡　６　轟遺跡　７　立切地下式横穴墓群　８向原第１遺跡
９　宮ノ谷遺跡　10　向原第２遺跡　11　立切第１遺跡　12　向原第３遺跡　13　広木遺跡　14　後原遺跡　15　大迫遺跡　16　大木遺跡
17　宮ノ原遺跡　18　中野遺跡　19　温水第２遺跡

第１図　周辺遺跡分布図



第２図　遺跡位置図

「天の逆鉾」が建てられており、高原町大字蒲牟田字祓川にある霧島東神社の社宝となっている。「天の逆鉾」が立てられたのは江戸時代頃と言われているが、詳細は分かっていない。また『日本書紀』にある神武天皇の幼名「狭野尊」が高原町狭野地区を指しているとされ、その他「血捨ノ木」「島井原」といった地名も残されている。また高原町は霊峰高千穂の峰の麓にあることから、宗教的に発展している地域であった。平安時代の僧侶性空により修行場としての基礎が作られたという伝承を持ち、中世には島津氏、伊東氏による宗教施設の奪い合いや、中世における島津氏の政策決定手法の「御鬮」がおこなわれるなど、宗教的な職免で収容しされることが多かった。特に、島津氏による九州制覇の過程では、その支配方法等を霧島山の神意を問う記述がみられる。中世から近世にかけては、「霧島六所権現」と呼ばれる、6つの寺社が大きな勢力を持つようになる。このうち、高原町には霧島東御在所両所権現社（現霧島東神社）、狭野大権現社（現狭野神社）の他、霧島山中央六所権現社（現霧島峯神社）の別当寺である瀬田尾権現社跡の計3寺社がある。

【旧石器時代】

高原町内において、現在までのところ旧石器時代の遺跡は確認されていない。高原町内は韓国岳から約16,000年前に噴出したと推定されている霧島小林軽石が約1m堆積している地域もあり、今後大規模開発があればこの火山灰の下から旧石器時代の遺跡が確認される可能性もあると考えられる。周辺地域においては、小林市の山之口原遺跡で旧石器時代の遺物と礫群が確認されている。

【縄文時代】

縄文時代早期の遺跡として、平成27年度に発掘調査を行った目ノ崎第一遺跡がある。山形押型文、岩本式、前平式、塞ノ神式土器や、石鏃等が見つかっている。平成6～8年度に県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った荒迫遺跡においても塞ノ神式土器の出土が確認されている。今回の川路山遺跡でも縄文早期の塞ノ神式土器を中心とした早期の遺物が出土している。縄文前期の遺跡としては、川路山遺周辺にある川除遺跡で曽畑式、轟B式土器が数点確認されている。また蒲牟田地区にある大谷遺跡の表採資料で同じく曽畑式土器が確認された。これまで前期までの調査遺跡は少ないが、中期以降の遺跡は、宮崎県埋蔵文化財センターが調査した広原第一遺跡（旧高原畜産高校遺跡）や、町教育委員会で調査した椨粉山遺跡（旧挟野第四遺跡）があり、阿高式土器が出土している。後期に入るころになると、遺物量も増え、広原第一遺跡や大谷遺跡、佐土遺跡、椨粉山遺跡など、高原町の発掘された遺跡の多くで後期の遺物が確認されている。

【弥生時代】

立山遺跡や荒迫遺跡で弥生時代後期から古墳時代にかけて住居跡が確認されている。荒迫遺跡では弥生時代後期から古墳時代にかけての住居跡や掘立柱建物、土坑、溝などが検出されている。また立山遺跡では、弥生時代後期から古墳時代初頭の住居跡が約30基検出されている。

【古墳時代】

高原町内では地下式横穴墓が現在までのところ4群118基検出されている。その内訳は湯之崎地下式横穴墓1基、旭台地下式横穴墓群13基、日守地下式横穴墓群32基、立切地下式横穴墓群72基であり、そのうち日守地下式横穴墓群の一部は町指定史跡となっている。湯之崎地下式横穴墓群は昭和47年11月整地作業中に発見され、緊急調査が行われた。1基のみの検出だったが、4体の埋葬人骨と刀子、鉄鏃、鉋など11点の副葬品が確認された。旭台地下式横穴墓群では、昭和50年12月に土木作業中の崩落により発見、緊急調査された。崩落により、残存状況はあまりよくなかったが、9号墓では鉾、鉄釧が出土したほか、調査した中では約100点近い鉄製副葬品が出土した。埋葬位置から直線配置埋葬のA群、円形配置のB-D群に分類され、他群に比べてA群の優位性が指摘されている（中野1998）。また、調査以

外にも地下式横穴墓が発見されたという話があり、実際はより広範囲になると推測される。日守地下式横穴墓群は、日守・仮屋尾地下式横穴墓群のうち、高原町側の地下式横穴墓群であり、隣の都城市高崎町大字前田字仮屋尾にも広がっている。高崎町側では、昭和44年の分布調査等によって9基発見されており、高原町側は昭和54・55年の採土作業により初めて発見された。発見された8基の中には、束柱のレリーフのほか、シラスを敷いた屍床や塗朱跡、天井部の彩色線文などが発見された。昭和56年の隣接地の確認調査では、10基の地下式横穴墓、土器溜まりなどが検出された。平成10・11年には天理大学考古学研究室による電気・レーダー探査が行われ、空洞反応等を利用した墳丘復元や玄室内の未発掘デジタルカメラ撮影などが試みられた。

立切地下式横穴墓群は、昭和63年12月に圃場整備中に発見されたため、発掘調査が行われ72基の地下式横穴墓群が検出された。郡内には赤色顔料を使用して垂木や棟木を表現したものが多くみられた他、レリーフ状の束柱なども見られた。また埋葬人骨77体、刀剣や刀子の他、線刻の入った鉄鏃・鉈・鋤先・鉄斧等鉄製副葬品277点、琥珀製小玉や管玉・白玉・鉄釧・イモガイ製腕輪等装身具123点など、副葬品も豊富に出土した。なお、地下式横穴墓に伴わない土器溜まりが2箇所検出され、墓前祭の可能性が指摘されている。

【歴史時代】

6世紀前半から9世紀にいたるまで、歴史的な資料は残されていない。9世紀にはいると、畝状遺構が荒迫遺跡、川除遺跡、大谷遺跡、椨粉山遺跡で検出されており、現在の町域の数か所で同時多発的に開墾が行われたと考えられる。このうち最も広範囲で検出されたのが荒迫遺跡であり、9世紀後半から10世紀にかけてのごく数年間に使用されたと推定されている。栽培作物については少量ではあるが稲と、根菜類栽培の可能性が高いと推測されている。

鎌倉時代から中世にかけては、荒迫遺跡、大鹿倉遺跡、椨粉山遺跡、宇津木遺跡などで陥し穴が多数検出されている。

中世では現在の町域は島津荘のひとつの三俣院もしくは藤原頼通に寄進された真幸院に含まれていたと考えられる。当時の小林市と高原町の境界が不明確であるため、どちらに所属していたかは分かっていない。

16世紀にはいると、真幸院領主の北原氏、伊東氏、島津氏へと支配体制が変化していく。また高原は、日向国と大隅国の国府付近を結ぶ要衝であることから、現在の市街地にある高原城が戦いの舞台となった。16世紀半ばになって伊東氏の領地となったが、天正4年（1576）8月に、島津義久、義弘らが高原狀を攻め落とし、高原は島津家の領地となり、以後も薩摩藩領として定着する。その後領内には地頭制が敷かれることとなった。

高原の領域は、地頭制施行当初は麓村、蒲牟田村、入木村、(以上、現高原町)、前田村、大牟田村、笛水村、江平村（以上、現都城市高崎町）と推定されるが、延宝8年（1680）に前田、大牟田、江平が高崎郷として独立し、紙屋郷水流村（現都城市）、小林郷広原村（現高原町）が編入し、この5村で幕末まで至る。

19世紀前半頃には高原郷そのものには地頭は派遣されず、周辺の数郷に地頭一人を配置する居地頭体制となった。当初は、小林、高原、加久藤、飯野、須木、野尻の6ヶ郷請持体制であったが、その後小林、高原、須木、野尻、高崎を合わせた5ヶ郷請持に再編成された。この請持体制がのちの西諸県郡の基礎に繋がるものと考えられる。

また高原郷は、南九州で著名な薩摩街道や肥後街道からは離れているが、鹿児島城下から綾郷（宮崎県東諸県郡綾町）に至るまでの綾往環が郷内を通過していた。鹿児島城下から国分・霧島を通って小池・御池沿いを廻りながら東御在所両所権現社の参道に出るものであった。

明治時代に入り、明治16年（1883）に宮崎県が設置されると、同6月には北諸県郡、翌17年には西諸県郡に属した。その後、明治22年（1889）の町村制施行に伴い、麓・蒲牟田・広原・後川内の4村

が合併して高原村が成立、昭和９年（1984）には町制施行に伴って高原町となる。その後、平成 14 年、平成 20 年に小林市との合併の協議を行ったが、現在まで合併されず、西諸県郡としては唯一の市町村となっている。

【参考文献】

久木田浩子・和田理啓 1998「荒迫遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第 11 集　宮崎県埋蔵文化財センター
大學康宏 1999「大谷遺跡表採縄文土器資料」『高原町文化財調査報告書』第４集　高原町教育委員会
大學康宏 1999「川除遺跡」『高原町文化財調査報告書』第５集　高原町教育委員会
大學康宏 2000「椨粉山遺跡」『高原町文化財調査報告書』第６集　高原町教育委員会
大學康宏 2003「町内遺跡Ⅲ」『高原町文化財調査報告書』第 11 集　高原町教育委員会
大學康宏 2004「宇津木遺跡」『高原町文化財調査報告書』第 12 集　高原町教育委員会
中野和浩 1998「地下式横穴墓の群構造」『宮崎考古』第 16 号　宮崎考古学会

第４節　調査の概要及び経過

調査区は調査前は畑であり、周辺から一段高い場所に立地していた。調査区は牛飼料のイタリアンの作付けがされており、その収穫が終わった８月下旬から行った。調査前挨拶に伺ったときの地主さんの話によると、昔周辺は丘になっており、南西戦争の際の見張り台になっていた場所と言われている場所であったという。その後、人家が建てられ、40 年ほど前に丘を削って畑にしたとのことである。発掘調査の中で、造成土中に人家があったころの道と思われる砂利道の跡や、畑を造成した際に重機で丘の土を移動させたと思われる痕跡が見つかっている。この２度目の造成の際に丘の最上部を削り土を移動させるのに加え、斜面の方々を掘り土地を平らにしており、調査地は多く攪乱を受けている状態であった。調査はまず調査区内の縁辺部の 1.5 ｍほど内側にトレンチを９本、調査地中央部に北西方向から南東方向に調査区を横断するトレンチを１本入れた。６Ｔの掘削中、アカホヤの二次堆積土上から石皿が出土したため、当該面での調査を行うこととなった。またトレンチでの掘削深を目安に、重機による表土除去を行った。その際横断しているトレンチに平行するベルトを残した。便宜上、横断するトレンチ（10 Ｔ）から東側を１区、10 Ｔからベルトまでを２区、ベルトから西側を３区と呼称した。調査区は北向きの傾斜地となっており、北側は現況から深さ約２ｍ、南側は深さ約 30 ｃｍで包含層になっていた。また調査区内でも１区と２～３区は土層が全く異なり、アカホヤの二次堆積土が堆積していたのは１区のみであった。一方２～３区は深いところでは牛のすね火山灰上部から下の土層が残存しており、特に２区では牛のすね火山灰下部から礫が検出されたため、２～３区では表土除去をアカホヤ下で止め、人力で牛のすね火山灰下部の掘削を行った。

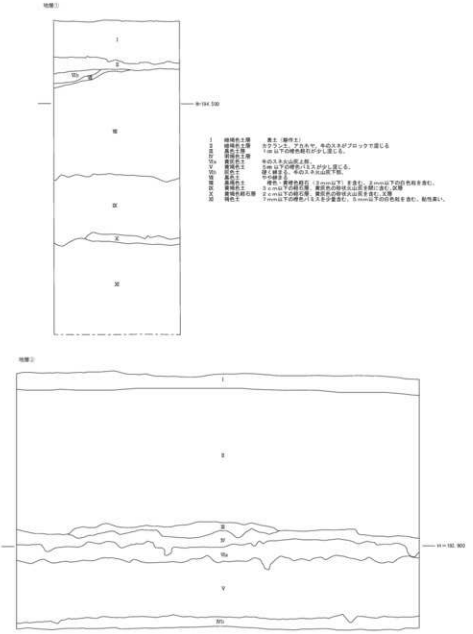
まず、１区の二次アカホヤ上の調査後は再度表土除去が必要になることから、２区の表土除去は荒堀に留め、３区は包含層上面まで露出させた。９月８日には作業員による掘削を開始し、１区及び３区の調査を実施した。１区の１次調査が終了した後、11 月 14 日から 17 日にかけては１区の火山灰除去と２区の包含層露出のための２次表土剥ぎを行い、全面的な調査を行った。また、当初調査地から除外していた３区南側のイタリアンのロール置き場になっていた区画付近から礫や土器片が多く出土していたため、畑の耕作者の方と連絡を取り、ロールの運び出しが終わった２月 15 日から 19 日にかけて、 追加で表土除去を行い、包含層調査を進めた。遺構は集石遺構が最も多く 25 基、そのほか土坑や竪穴状遺構も見つかっている。

写真撮影については６×９版モノクロ・リバーサルフィルム、35 ｍｍモノクロ・リバーサルフィルム、NIKON　D5100、CANON　EOS　Kiss　X5 で撮影を行った。

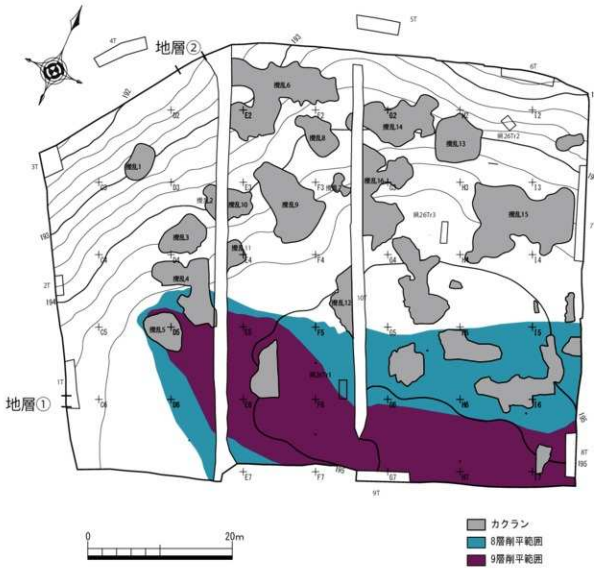
第５節　遺跡の層序

当遺跡の土層の堆積状況は、１区と２～３区で大きく異なっており、その分かれ目には緩やかな谷があったと考えられる。

１区の土層はⅠ層表土、Ⅱ層造成土、Ⅳ'層明褐色土、Ⅴ層アカホヤ火山灰、Ⅵb層牛のすねローム下部、Ⅷ'層明褐色土となっている。Ⅳ'層はアカホヤの二次堆積で、縄文時代前期の遺物包含層であった。１区は全層を通じて堆積が乱れており、近くに谷があったことが影響していると考えられる。乱れたⅥb層とⅧ'層の間からは縄文時代早期の遺物が出土している。２～３区の土層は、Ⅰ層表土、Ⅱ層造成土、Ⅲ層黒色土、Ⅳ層明褐色土、Ⅵa層牛のスネ火山灰上部、Ⅴ層アカホヤ火山灰、Ⅵb層牛のスネ火山灰下部、Ⅶ層黒色土、Ⅷ層黒褐色土、Ⅸ層明褐色土、Ⅹ層小林軽石となっている。Ⅲ層は削平により、調査区の一部分のみ堆積が残っており、高原スコリアを含む。Ⅳ層も調査区一部のみの堆積であった。Ⅴ層のアカホヤ火山灰層は黄橙色を呈し、最下部には火山豆石が堆積していた。Ⅶ層は土壌学で埋没表層と呼ばれている層であり、やや砂質で硬くしまる。Ⅵb層は牛のスネ火山灰下部層で、灰色で硬くしまる。鹿児島県内



第３図　基本層序



第４図　調査区削平状況及び基本層序位置図

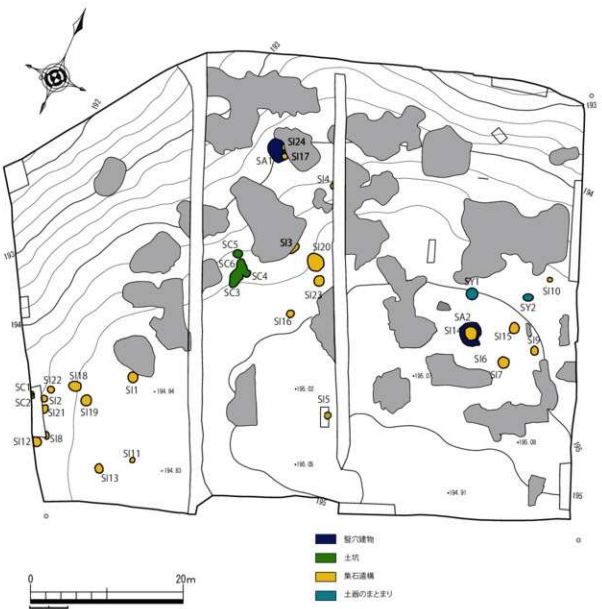
で見られる牛のスネ火山灰とは異なり、断続する噴火を示す縞模様は見られず、土壌化が進んでいる。この火山灰の中から集石遺構が１基見つかっている。また元位置は留めていないが、牛のスネ加火山灰のブロックが付着した轟Ｂ式土器が出土している。Ⅷ層は縄文時代早期の遺物包含層であり、黄橙色・橙色の軽石を含む。この黄橙色・橙色軽石の量でさらに３層に分類できる。上層は軽石の量が少なく、中層は軽石の量が多くなる。下層は軽石の量が少なくなり、白色粒が多く含まれる。遺物は中層に多く、川路山遺跡の遺物出土主体は当層となる。遺物は押型文土器、手向山式、下剥峰式、桑ノ丸式、塞ノ神式土器が出土している。遺構は竪穴状遺構２基、土坑６基、集石遺構 24 基を検出した。Ⅹ層は小林軽石層であり、断続的な噴火をしめす縞模様がみられた。遺物包含層の精査はⅣ'層・Ⅷ層を中心に行い、一部Ⅸ層も精査している。

第２章　牛のスネ火山灰下部下の調査

第１節　遺物、遺構の分布状況

基本土層Ⅶ～Ⅸ層において縄文時代早期の遺物・遺構が確認された。本遺跡の調査において多く割合を占める時期である。本遺跡の調査において多く割合を占める。最も多くの遺物が出土したのは、Ⅷ層中ほどの黄橙色・橙色軽石の密度が高い部分であった。出土した遺物は押型文土器、手向山式、桑ノ丸式、下剥峯式、平栫式、塞ノ神式土器が出土している。。遺物分布は調査区のほぼ全面に広がっており、土器、チップの出土はある程度まとまりが確認できる。３区中央付近には土器の集中区が確認されたが、遺構は確認できなかった。

遺構の検出は標高 194 ～ 195m の間に集中しており、竪穴建物跡２基、土坑６基、集石遺構 24 基を検出した。また集石遺構については、土取りによる攪乱の数が多く、はっきりしたことは言えないが、大きく３か所のまとまりが見て取れ、周辺からは焼礫が多く出土した。



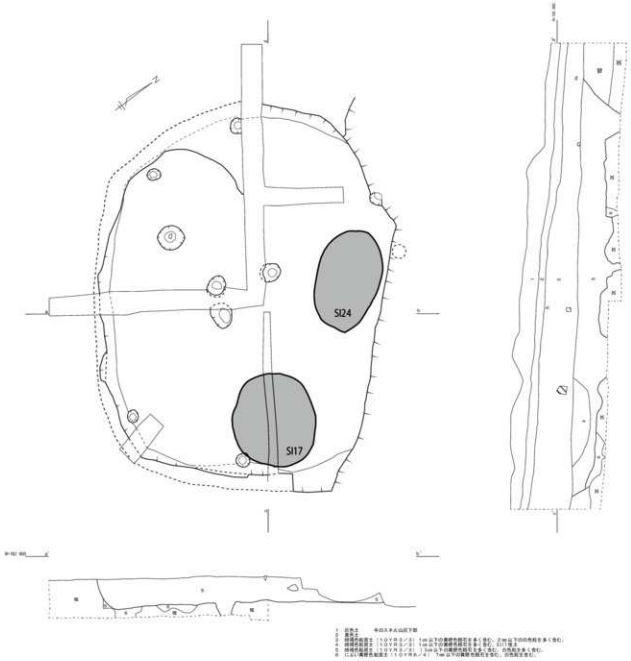
第５図　縄文時代早期遺構分布

第２節　遺構について

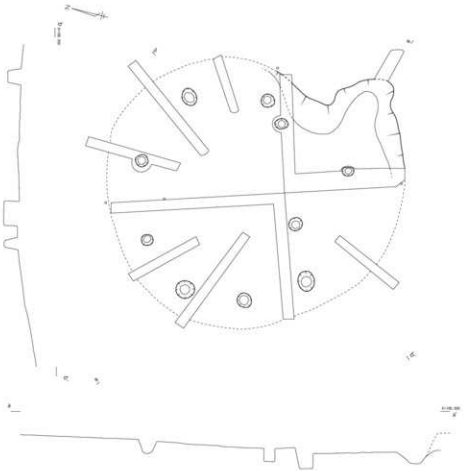
Ⅰ　竪穴状遺構

SA 1

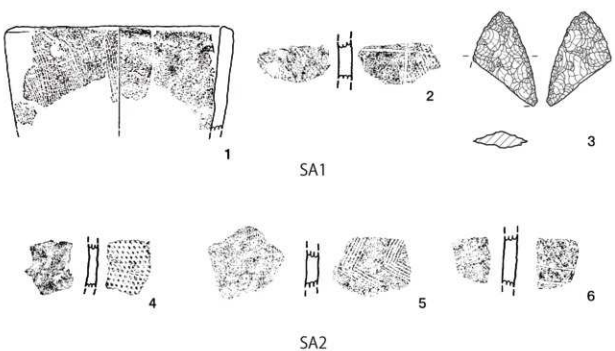
撹乱穴の壁に桑ノ丸式土器が横転しており、また撹乱穴により事前に土層を確認できたことから、遺構の可能性を考慮し調査を行った。Ⅶ層上層から掘り込み、床はⅨ層にかろうじてかかる程であった。平面プランがつかみづらかったため、最終的な残りは良くないが、平面プランは隅丸方形風である。遺構の内側壁付近からピットが検出された。ピットは直径 10cmほどである。住居の規模は残存で 3.1 × 2.45m である。北西向きの傾斜に対し、遺構の底面が水平になるよう南東を深く掘りこんでいる。埋土は遺物包含層よりやや色が暗く、黄橙色軽石をやや多く含んでいる。また埋土には風化したアカホヤ火山灰と思われるブロックが含まれていた。掘り込みの最も高いところから約 25cm ほど下げると、北西部は立ち上がりが見えにくい。また北西向きの傾斜に対し、住居の床面は水平になるようにするためか、やや南東を深



第６図　SA １実測図（S=1/40）



第７図　SA ２実測図（S=1/40）



土器 S=1/3
石器 S=2/3

第８図　SA １・２出土遺物実測図

く掘りこんでいる。

遺物は、底面付近から横転した桑ノ丸式土器の他、ピットの埋土内から塞ノ神式土器、凹石が出土した。また遺構埋土中からも敲き石、軽石、土器片が出土している。

SA2

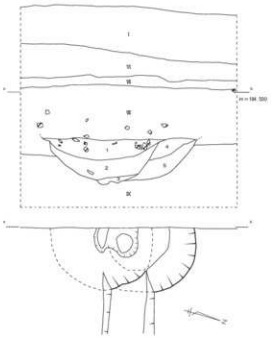
調査当初は礫が多く分布しており、集石遺構（SI14）として調査していたが、サブトレンチを掘削したところ、柱穴らしき落ち込みが確認されたため、下層に遺構があるとしての調査を行った。推定規模3.2m × 1.85m であり、平面プランは円形を呈すると思われる。住居の推定壁付近に 10㎝程のピットがめぐる。包含層にはアカホヤ火山灰と思われるブロックが含まれており、おおよその掘り込み範囲を確認できたが、立ち上がりについては一部しか確認できなかった。

遺物は桑ノ丸式土器、塞ノ神式土器、黒曜石のチップが出土しているが、住居廃棄後の流れ込みと思われる。

Ⅱ　土坑

SC1

少量の礫を伴う。先行トレンチ１北壁で検出された。平面プランのほどんどは先行トレンチ１によって削平された。SC２と切りあっており、SC１が新しい。調査区東壁で確認できる規模は0.9ｍ×0.5ｍであり、平面プランは円形でポール状を呈する。



1. 褐黒色粘質土　2㎝以下の黒褐色粘質土を含む。白色粘土を少量に含む。
2. 褐黒色粘質土　7㎝以下の黒褐色粘質土を含む。白色粘土を含む。
3. 黒褐色粘質土　2㎝以下の黒褐色粘質土を含む。白色粘土を含む。しまりが強い。炭化物を含む。
4. 褐黒色粘質土　7㎝以下の黒褐色粘質土を含む。白色粘土を多く含む。
5. 褐黒色粘質土　1㎝以下の黒褐色粘質土を微量含む。白色粘土を微量含む。

第８図　SC １・２実測図

SC2

少量の礫を伴う。SC 1に先行する、先行トレンチ1東壁で検出された。調査区東壁で確認できる推定規模は0.5 m×0. 3 mでボール状を呈すると思われる。

SC3

Ⅶ層中ほどから掘り込んでいる。黒褐色粘質土の中に黄橙色・橙色軽石が密集しており、遺構があると想定して掘削したところ、SC 3、5、6が切り合っていた。規模は0.9 m×0.5 mの楕円形プランである。深さは検出面から約50cmである。土坑の床直上で土器の底部が出土し、集石遺構から出土したものと接合できている。

出土遺物は桑ノ丸式、塞ノ神式、山形押型文等の土器片34点や、磨石、黒曜石の石核、軽石である。特に出土量が多かったのは黒曜石チップで約60点出土している。そのうち13点（7～19）を図化している。少量の炭化物も出土している。

SC4

SC 3、6と切りあう。小礫を伴う土坑である。規模は長径0.95×0.9 mの円形プランであり、深さは検出面から約60cmとなっている。ボール状を呈する。20は塞ノ神式土器の小片である。また剥片7点（チャート、黒曜石）が出土している。炭化物も少量確認された。

SC5

小礫を伴う土坑である。推定規模は1.25 m×1.3 mで円形プランでボール状を呈すると思われる。深さは検出面から約40cmである。土器片1点､黒曜石の剥片10点が出土している。炭化物も少量出土した。

SC6

SC 3、4と切りあっている。5cm程の礫を伴う。規模は長軸2.2 m、短軸1.4 mで、楕円形を呈する。剥片（チャート、黒曜石）が3点出土している。埋土中に炭化物が少量含まれた

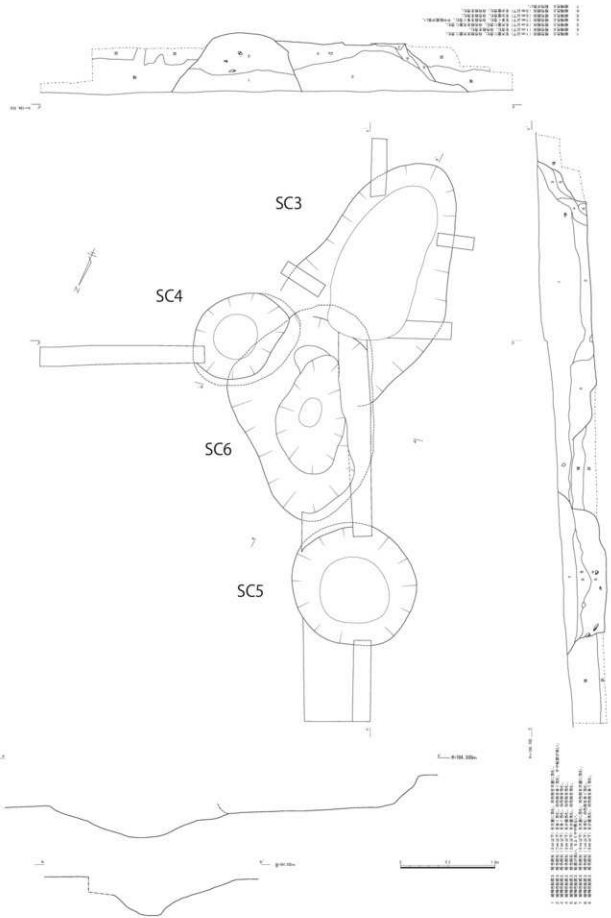
Ⅲ　集石遺構

川路山遺跡において、縄文時代早期の集石遺構は24基検出された。そのうち掘り込みを持つ集石遺構がほとんどであり、掘り込みを持たない集石遺構は2基であった。また掘り込みの形状は皿状のものが20基､擂鉢状のものが2基である。配石を持つ集石遺構は3基あった。標高194～195mに分布しており、調査区の東側、中央付近、西側の大きく3箇所のまとまりがあり、礫の散布地と重なる。

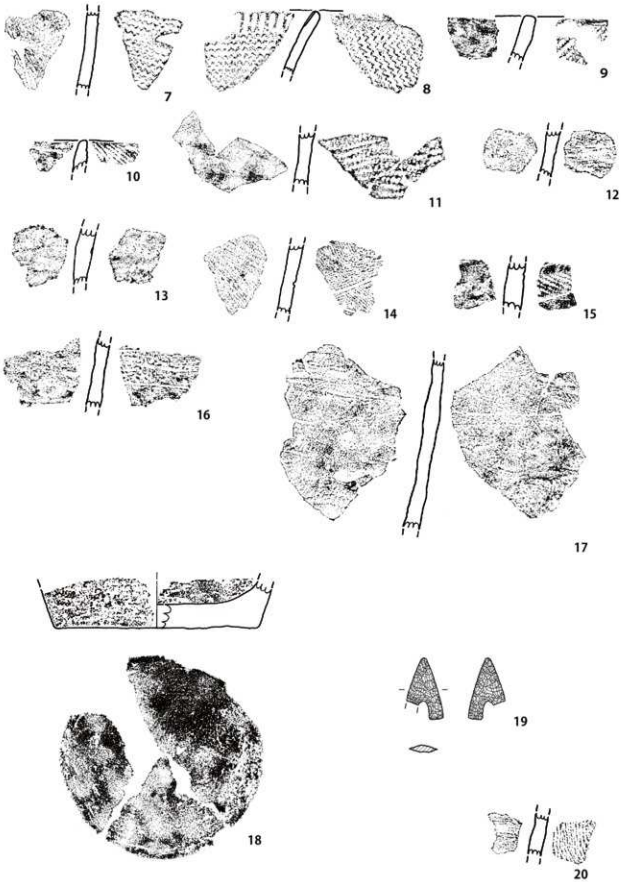
1．集石遺構の調査方法及び図面作成方法

集石遺構と思われる礫の広がりがあった場合､その周辺を面的に広げていくことで集石遺構を検出した。精査し平面プランを検出後、平面図を作成する。なお平面図に図化する礫は検出面のみで、下層にある礫の見通しは図化していない。その後、設定した軸を基準に4分法、規模の小さいものは2分法にて掘り込みを確認した。その際、アイスピック状のもので下層の礫を確認し、最外面の礫は取り外さないようにした。最外面まで検出後、断面図を作成した。断面図を作成後、最外面以外の礫を取り外し、最外面の礫が密であった場合や配石があった場合、再度平面図を作成した。その後、全ての礫を取り外し、掘り込みを精査、掘り込みの平面図、断面図を作成した。写真については図化の前に随時撮影している。トータルステーションで軸のポイントと掘り込みの範囲を記録し、調査を終了した。

また調査中集石遺構埋土の一部を採集し、整理作業でフローテーションを行った。

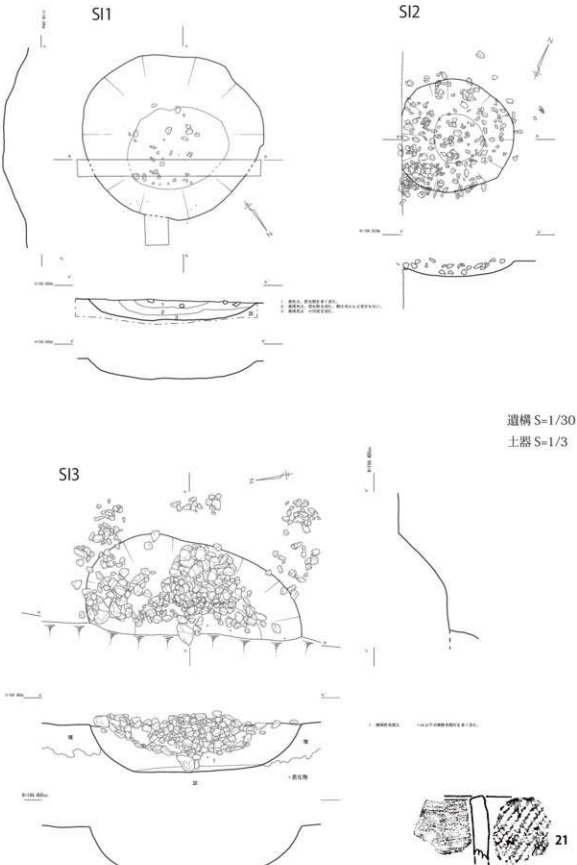


第10図　SC 3～6実測図



SC 3：7～19
SC 4：20

第11図　SC 3・4出土遺物図（S=1/3）



第 12 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図①（S=1/30、1/3）

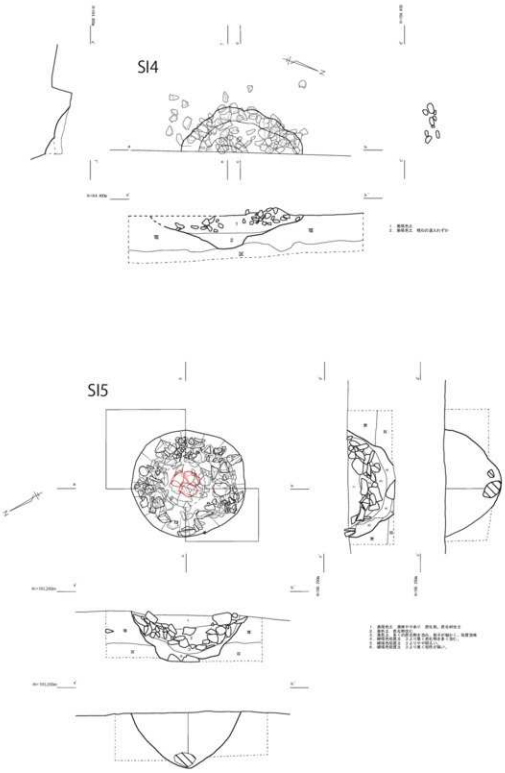
第 13 図　縄文時代早期検出集石遺構礫検出状況（S=1/60）

２．各集石遺構の状況

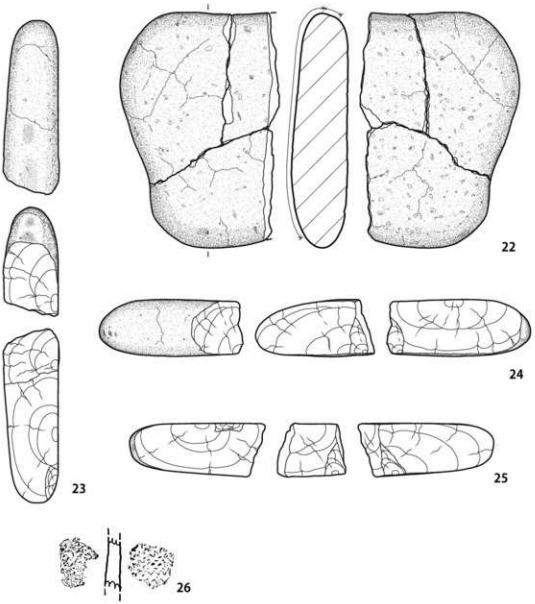
以下各集石遺構の検出状況等について報告する。詳細については表　を参照いただきたい。

SI 1

1.4m× 1.3mの皿状の掘り込みを伴う。撹乱穴のすぐ脇で検出され、検出面はⅨ層である。耕作土の直下であったため、礫はまばらであったが、炭化物を多く含んでいた。



第 14 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図②（S=1/30）



第 15 図　SI ５出土遺物実測図（S=1/3）

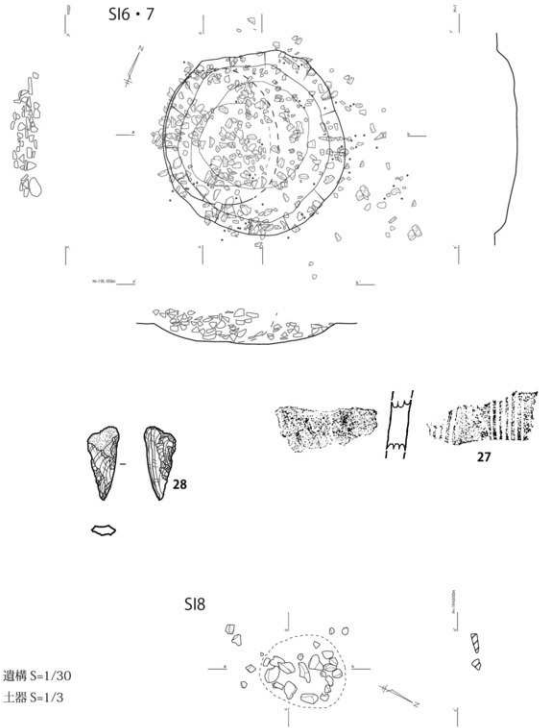
検出面で、黒褐色土中に炭化物が集中し、遺構と判断した。集石遺構の土抗底面付近と考えられる。平面および埋土中には炭化物が多く含まれていたが、礫はあまり含まれておらず、その大きさも５cm 以下が大部分を占める。礫は赤褐色味のある色に変色しており、亀裂も多く入っていた。

SI ２

先行トレンチ１の東壁に礫の密集があったことで検出した。検出面はⅧ層中～下層で浅い皿状の掘り込みを伴う 0.9m × 0.9m の集石遺構である。炭化物はほどんど含まれなかった。埋土中からは土器片（21）や黒曜石剥片２点（うち１点は姫島産）が出土した。

SI ３

表土剥ぎの際、撹乱穴９の壁から検出された。丸みを帯びた擂鉢状の掘り込みを伴う。底面中央に 30cm ほどの配石が確認できた。SI ３周辺から多量の礫が検出されたため、当初は大規模な集石と考えていたが、調査を進めると３基（SI3、SI20、SI23）の集石遺構が密集していることが分かった。SI ３自体は 1.68



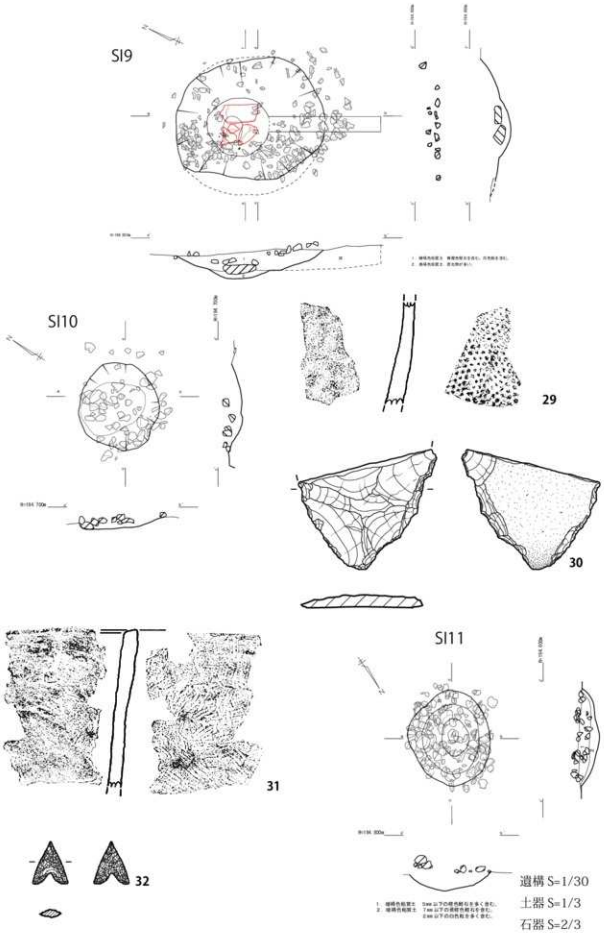
第 16 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図③（S=1/30、1/3）

× 0.73 mの集石遺構であった。平面プランは攪乱によってはっきりとしないが、楕円形を呈すると思われる。検出面付近で平栫式土器 1 点が出土した。

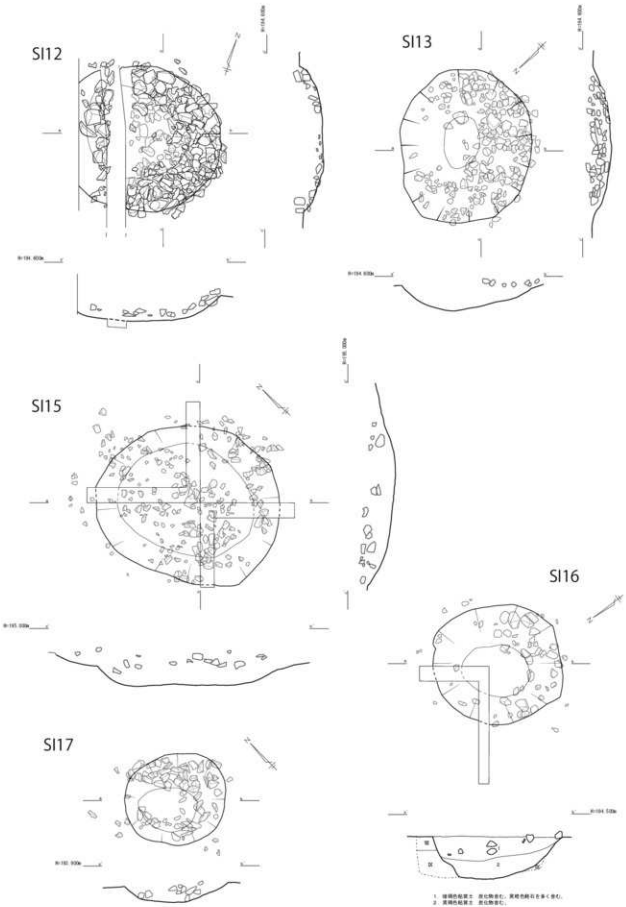
SI 4

先行トレンチ 10 の西壁から検出され、皿上の掘り込みを伴う。先行トレンチによって平面プランはやや分かりづらくなっているが、断面の状況から平面形はドーナツ状を呈すると想定される。掘り込み中に含まれる礫はあまり多くなく、残存で 1 m× 0.3 m規模で 151 個の礫が含まれていた。礫は加熱により、赤褐色に変色しもろくなっている。

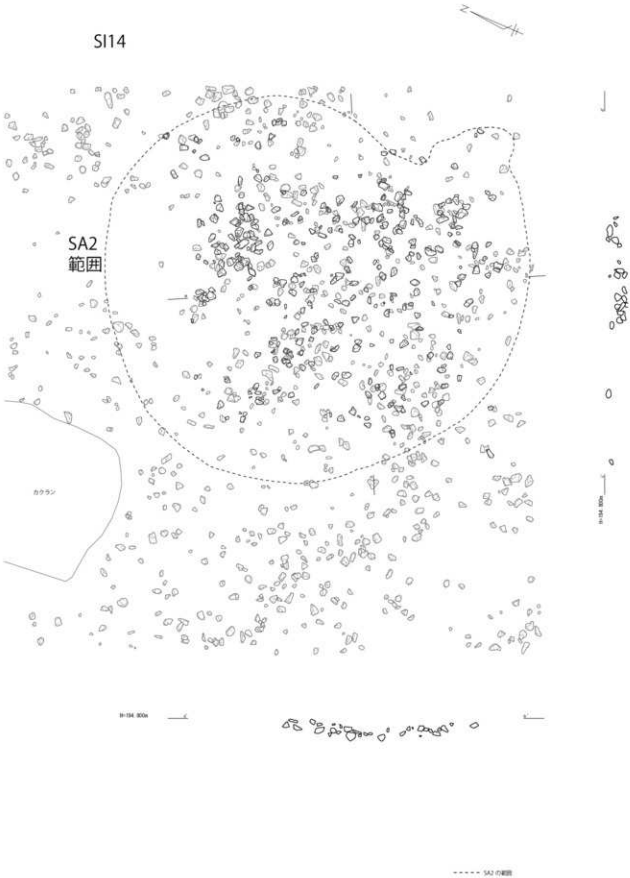
礫下部で炭化物が確認された。土器の底部が出土し、SC3、SI 6 出土のものと接合した。



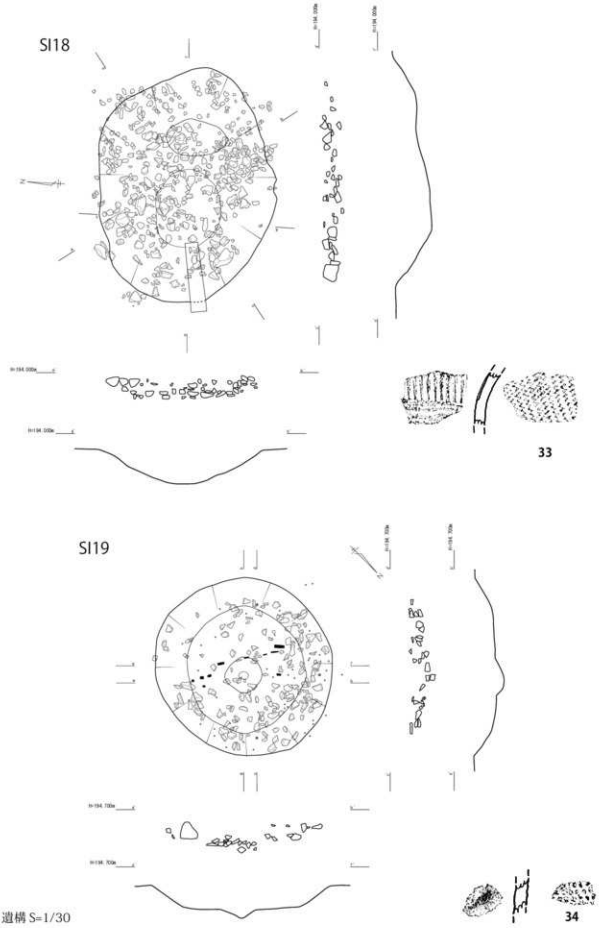
第 17 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図④（S=1/30、1/3、2/3）



第 18 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図⑤（S=1/30）



第 19 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図⑥（S=1/60）



遺構 S=1/30
土器 S=1/3

第 20 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図⑦（S=1/30、1/3）

SI 5

耕作土直下からの検出で、県の試掘トレンチ１によって検出された集石と同一である。平面プランはドーナツ状であり、検出面から 10cm 程度下から中央付近にも礫が検出された。擂鉢状の掘り込み、配石を伴う。0.9 m× 0.9mの集石遺構であった。集石の全体の石が噛み合いが強く、丁寧に積まれている。残存する集石遺構を構成する礫周辺の土は全体が黒みが強く、粘性が強い。底面に近づくにつれて粘性が強くなっていた。石皿を転用して礫として使用している（22 ～ 25）。炭化物はほぼ含まれていなかった。埋土中より山型押型文土器（26）が１点出土した。

SI 6

SI 7 の検出、図面を作成後、礫を取り外している最中、白色の強い礫が検出されたことで切りあいが判明した。平面的に広げたところ残存規模 0.6 × 1.45 mの集石遺構と判明した。検出面の高さ、切りあいから、SI 7 に先行する。SI 7 に比べ、炭化物が多く出土した。条痕を持つ土器（27）、チャート剥片（28）、が出土した。また土器の底部も出土し、SC3、SI 4 出土のものと接合した。

SI 7

上面から礫が多く出土し、調査当初、直径１ mほどの集石と考えていたが SI 6 と切りあいがあった。SI 6 の検出、図面を作成後、礫を取り外している。掘り込みは残存 1.1 × 0.85 mであり、掘り込みの側面から土器の底部が出土した。この底部は SC 3、SI16 から出土したものと接合できた。

SI 8

調査区拡幅前の西壁横から検出された。調査区西壁に礫や掘り込みがなかったことから、掘り込みを持たない集石と考えられる。平面の礫は 0.9 × 0.5mの範囲に 15㎝程の礫が楕円形に分布していた。炭化物が少量含まれていた。

SI 9

浅い撹乱穴の下から検出された。上面は殆ど撹乱を受けており、検出面ではかろうじて集石らしい痕跡があるのみだった。平面図作成後、礫を取り外している途中に南東側と北西側から礫が密集しだした。更に掘り下げると配石があることが判明した。Ⅸ層上面から掘り込んでいる。炭化物を多く含んでいた。

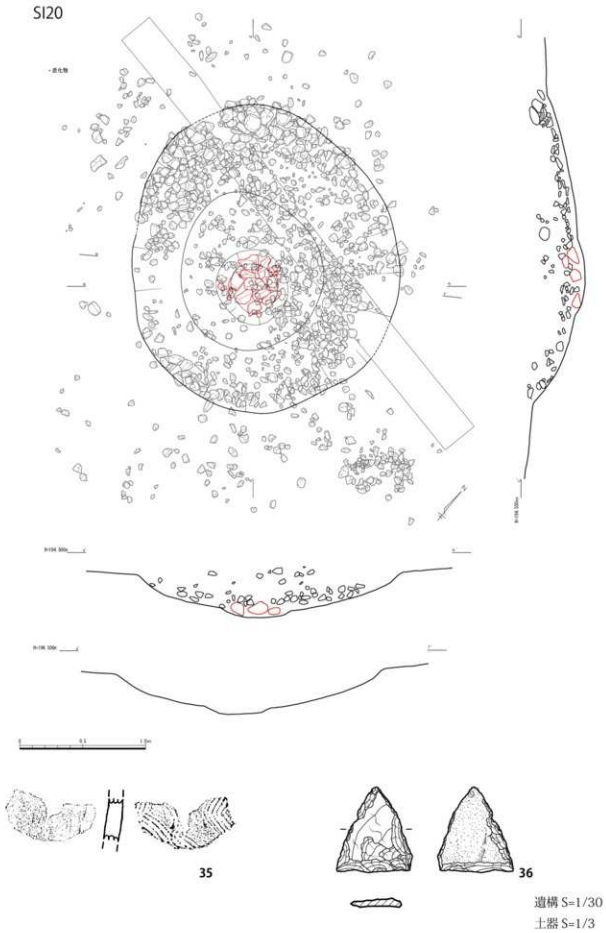
出土遺物は押型文土器（29）、塞ノ神式土器等の土器片７点、石器１点であった。

SI10

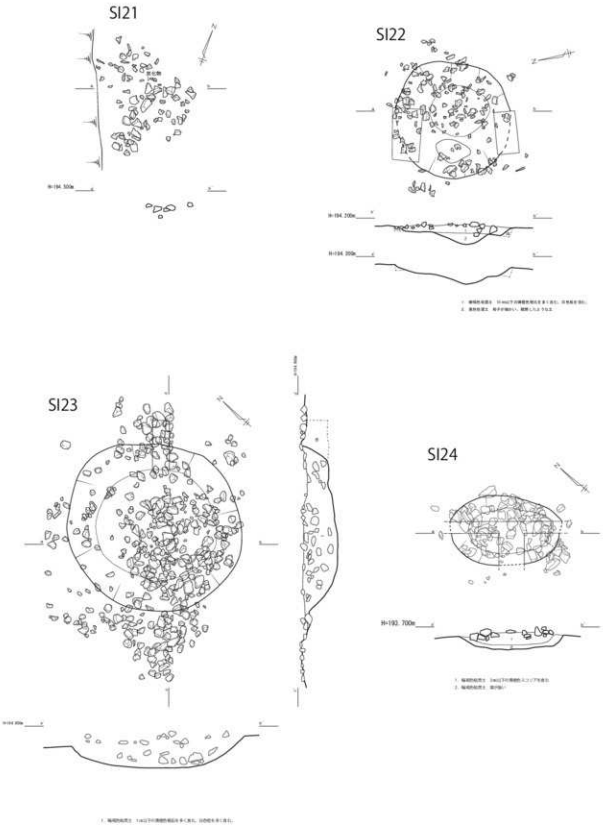
検出面はⅧ層上層であるが、耕作土直下であったため、上面は後世の削平を受けている可能性がある。礫の範囲は 0.9m× 0.8mで、円形プランの集石の底部付近と思われる。検出面の礫は角礫が多く使用されている。出土した 30 はスクレイパーと思われる。掘り込みは浅く、礫はあまり含んでいないが、埋土に炭化物を少量含む。

SI11

３区から検出された。初めは礫の密集と土器が検出され、プランが不明瞭であったが平面図作成後、土器を取上げた後で、その下層から円形に回る集石を検出し、そこで平面図を再度作成した。土層観察のために残していたベルト近くであり、ベルト下にも集石遺構が広がる可能性があったため、ベルトの取り外しを行った。0.7m × 0.6 mの浅い掘り込みがある集石遺構であり、炭化物は余りない。Ⅷ層中～下層が平面プラン検出面であった。礫を取り外していくと、礫下部は黒味が強く、炭化粒が含まれていた。
検出面で出土した土器は短い鋸歯状の貝殻条痕文の土器で桑ノ丸式土器（31）と思われる。その他チャー



第 21 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図⑧（S=1/30、1/3）



第 22 図　縄文時代早期検出集石遺構実測図⑨（S=1/30）

ト製の鏃（32）や姫島産黒曜石の剥片１点が出土した。

SI12

Ⅷ中～下層で平面プランを検出した。一部トレンチャーによる削平を受けているが、残存状態は良好であり、礫同士が密着して底面まで組まれていた。平面プランは調査区外にまではみ出しており、上面からの検出ができなかったが、掘り込みは 1.2 m× 1.2 mほどと思われる。掘り込みは浅く、Ⅶ層中層までで留まり、埋土中の炭化物はあまり多くなかった。塞ノ神式土器の小片が出土した。

SI13

Ⅶ層中層で検出された。平面プランは円状ではあるが、残存状況はあまりよくない。掘り込み１は 1.2m × １mで礫はやや詰まっているが、炭化物はほとんど含まれていなかった。

SI14

SA ２の上面で検出した。耕作土の 20cm ほど下のⅦ層中層からの検出で、最初はまばらな散石状であり、中央付近に黒く落ち込みがある状態であった。４分法でトレンチを入れると掘り込みを確認できた。礫をすべて外したところ、柱穴が見つかったため、竪穴建物を転用し集石にしていたと考えられる。周辺には風化したアカホヤブロックがあり、それを含まない範囲で掘り込みを確認できた。集石遺構の推定範囲には土器５点、石器１点、剥片３点が含まれていた。

SI15

検出面は耕作土の 15cm ほど下のⅦ層下層である。平面プランは円状であるが礫密度は高くなかった。浅い掘り込みが確認された。検出時、炭化物が点在しており、掘り込み内の炭化物は１㎝程度の大きさであった。また黒曜石のチップが２点出土した。掘り込みは 1.4 × 1.3 mで、採取した埋土からノビル鱗茎の炭化物が出土した。

SI16

平面プランは円形である。掘り込み内は礫を外し清掃をしていると次の礫が検出されるような状態であり、礫密度はまばらである。礫を外した際炭化物が多く出土する。埋土は黒褐色土であったが下層は粘度が強く、霧島系火山灰と思われるブロックが混ざっていた。黒曜石、チャート剥片が４点出土した。掘り込みは１m× 0.9mで、擂鉢状であった。

SI17

SA1 の上から検出された２基の集石遺構のうち上層から検出された集石遺構である。平面プランは楕円形を呈し、0.8m× 0.7mの皿状の掘り込みを持つ。外側の礫が立てるような形で組まれていた。石器１点、チャート剥片１点が出土した。埋土フローテーションでは少量の炭化物が出土し、炭化したオニグルミが含まれていた。

SI18

平面プランは楕円状であり、規模 1.8m × 1.3m で今調査内では大規模な部類に入る。礫の散布はⅦ層中層から確認できたが、プランとして検出できたのはⅨ層であった。検出面では土器片１点が出土しており、 山型押型文土器（33）であった。その他剥片２点（黒曜石、チャート）が出土した。礫は上層に集中しており、下層は炭化物交じりの埋土である。炭化木も出土し、埋土中に含まれる炭化物はやや多かった。

SI19

SI18 に隣接する集石遺構で、SI18 と同様検出はⅨ層であった。礫の密度は高くはないが、検出面から炭化物が多く検出されており、掘り込み内でも炭化物が多く出土した。楕円押型文(34)を含む土器片５点、石器１点、剥片３点（黒曜石２点、頁岩１点）も出土している。掘り込みは 1.4 m× 1.4 mであった。

SI20

平面プランはドーナツ状であり、規模 3.0 × 2.56 mの今調査で最大規模の集石遺構である。Ⅶ層上層から礫が広い範囲で確認された。集石としてはⅦ層中層からの検出であった。炭化物が大量に出土し、配石も確認された。出土遺物は山形押型文１点、桑ノ丸２点（35）土器片３点、チャートや黒曜石の剥片が21 点出土している。36 は尖頭状石器である。また採取した埋土内から炭化したノビル鱗茎が出土した。

SI21

Ⅶ層中層での検出で、楕円状の平面プランと思われる。掘り込みは伴わない。炭化物、チャート剥片１点を含んでいた。礫の分布範囲は、0.9 m× 0.8 mであった。

SI22

平面プランは円形を呈する。掘り込み中の礫はまばらで、一つの礫をはずすと点々と次の礫が出土する状態であった。礫の大きさは 15cmほどのものもあるが、10cm 以下のものが多く半分以上を占めていた。角礫が多く、炭化物が少量出土した。沈線をもつ土器１点が出土している。

SI23

SI20 と隣接する。最初は SI20 の散石として調査していたが、調査終盤に集石であると判明した。埋土

第１表　縄文早期包含層検出集石遺構計測表

遺構名	グリッド	礫				掘り込み			配石	種子	14C 年代（年 BP）	備考
		礫分布範囲（長軸×短軸）（m）	総礫数（個）	総重量（kｇ）	礫１個当たりの重量（kｇ）	断面形状	長軸×短軸（m）	検出面からの深さ（m）				
SI 1	D4	0.65 × 0.57	79	2.5	0.03	皿状	1.425 × 1.29	0.17	無	－		
SI 2	C5	1.21 × 1.03	182	9.8	0.12	皿状	0.9 × 0.89	0.09	無			
SI 3	E2	1.65 × 1.1	627	66.8	0.85	皿状	1.68 × 0.73	0.38	有		8810 ± 30BP	
SI 4	F2	1.07 × 0.5	151	21.3	0.27	皿状	0.96 × 0.34	0.2	無			
SI 5	F5	0.83 × 0.80	458	161.1	2.04	舟状	0.88 × 0.86	0.44	無	オニグルミ	8245 ± 30BP	炭化材細片あり
SI 6	H5	(0.6 × 1.45)	806	86.7	1.10	皿状	1.48 × 1.36	0.15	無			
SI 7	H5	0.82 × 1.2				皿状	(1.1 × 0.85)	0.23	無			
SI 8	B6	0.86 × 0.50	22	12.6	0.16		—	—	無			
SI 9	H5	1.26 × 1.54	406	27.1	0.34	皿状	(0.93 × 1.2)	0.21	有			
SI 10	I4	0.92 × 0.75	83	7.5	0.09	皿状	0.71 × 0.64	0.06	無			
SI 11	C6	1.02 × 0.82	640	64.8	0.82	皿状	0.76 × 0.67	0.13	無		8470 ± 35BP	
SI 12	B6	1.35 × 1.25	585	121.1	1.53	皿状	1.23 × 1.15	0.19	無			
SI 13	C6	1.27 × 1.01	860	85.4	1.08	皿状	1.24 × 1.09	0.21	無			
SI 14	H4	(1.4 × 0.8)	886	49.1	0.62	皿状	(1.4 × 1.15)	0.14	無			
SI 15	H4	1.57 × 1.42	460	37	0.47	皿状	1.45 × 1.25	0.16	無	ノビル鱗茎		
SI 16	E4	1.17 × 0.95	56	8.3	0.11	舟状	1.05 × 0.94	0.33	無			
SI 17	E2	0.91 × 0.90	183	37.1	0.47	皿状	0.8 × 0.69	0.12	無	オニグルミ	8495 ± 30BP	
SI 18	C5	1.92 × 1.54	990	108.9	1.38	皿状	1.82 × 1.35	0.27	無	鱗茎類		
SI 19	C5	1.38 × 1.24	692	59	0.75	皿状	1.4 × 1.4	0.25	無			
SI 20	E3	2.45 × 2.2	3575	389.1	4.93	皿状	3.0 × 2.56	0.31	有	ノビル鱗茎		
SI 21	B5	0.9 × 0.78	133	8.1	0.10	—	—	—	無			
SI 22	B5	1.20 × 1.11	270	13.9	0.18	皿状	0.93 × 0.92	0.15	無			
SI 23	E4	2.4 × 2.1	641	43.8	0.55	皿状	1.35 × 1.32	0.22	無			
SI 24	E2	1.01 × 0.56	130	19.8	0.25	皿状	0.89 × 0.56	0.12	無		8475 ± 30BP	

中に炭化物を少量含んでいる。掘り込みは 1.35 × 1.32 m で皿状である。

SI24

SA 1 の廃棄後につくられた 2 基の集石遺構のうちの 1 基である。検出面は SA 1 の底面付近で、土層は IX 層に漸移する面であった。撹乱穴の壁で検出していた礫を含む集石遺構である。規模は 0.9m × 0.6 m で、平面プランは楕円形を呈する。炭化物は含まれていなかった。

第 2 表　縄文早期遺構内出土土器観察表

遺物 No.	遺構	文様及び調整			色調		胎土										備考	実測 No.
		部位	外面	内面	外面	内面	石英	角閃石	角閃石	金雲母	雲母	砂粒	白色鉱物	黒色鉱物	赤色鉱物	黒曜石		
1	SA1	口縁部	ケシ状工具	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○						○			黒変あり	47
2	SA1	胴部	縄文　沈線文　ナデ	ナデ	2.5 Y 7/3（浅黄）	2.5 Y 7/3（浅黄）	○	○						○				48
4	SA2	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR7/4（にぶい黄橙）	10YR7/3（にぶい黄橙）	○	○	○			○	○			○		55
5	SA2	胴部	擬刃状日隆条痕文	ナデ	5 Y 7/2（灰白）	5 Y 7/2（灰白）	○					○		○	○			56
6	SA2	胴部	沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR7/4（にぶい橙）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○						○	○			57
7	SC3	胴部	山形押型文	ナデ	10YR7/4（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○		○					○				64
8	SC3	口縁部	山形押型文	山形押型文 楕状文	10YR7/3（にぶい黄橙）	7.5YR にぶい黄橙 6/4	○						○	○	○			72
9	SC3	口縁部	縄文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○		○		○						67
10	SC3	口縁部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○						○		○			68
11	SC3	胴部	縄文	丁寧なナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR4/2（灰黄褐）	○			○		○		○	○			75
12	SC3	胴部	沈線文　ナデ	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○		○					○			スス付着	73
13	SC3	胴部	貝殻刺突　ナデ	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR7/3（にぶい黄橙）	○	○				○	○				黒変あり	74
14	SC3	胴部	撚糸文　沈線文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○						○	○			65
15	SC3	胴部	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○	○	○				70
16	SC3	胴部	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○					○		○	○			69
17	SC3	胴部	ナデ	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○							○			66
18	SI4 SI6 SC3	底部	ナデ	丁寧なナデ	7.5YR7/4（にぶい橙）	10YR7/3（にぶい黄橙）	○					○			○		黒変あり	71
20	SC4	胴部	撚糸文	ナデ	5YR5/6（明赤褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○	○				○				スス付着	60
21	SI3	口縁部	縄文	丁寧なナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR6/6（明黄褐）	○			○		○						49
26	SI5	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR4/3（黄褐）		○				○		○	○	○	内にススト付着	50
27	SI6	胴部	貝殻条痕文	工具ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）						○		○	○			51
31	SI11		刻痕状文	ナデ	10YR5/4（にぶい黄褐）	10YR4/3（にぶい黄褐）		○			○			○		○		79
33	SI18	口縁部	山形押型文	楕状文　ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR6/2（灰黄褐）			○				○	○	○			58
34	SI19	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR7/6（明黄褐）	10YR6/4（にぶい黄橙）						○		○	○			59
35	SI20	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR6/6（橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○					○	○		○		61

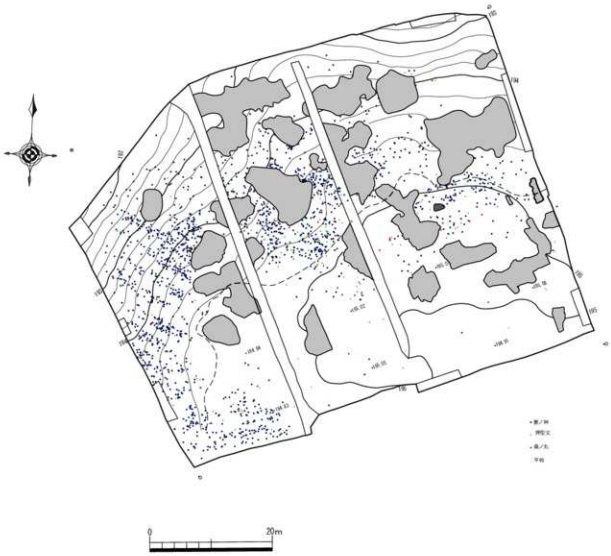
第 3 表　縄文早期遺構内出土石器観察表

番号	出土地	器種	石材	最大長（c m）	最大幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考	悉皆 No.
3	SA1	石槍	頁岩	(3.70)	(2.55)	(0.80)	(5.30)	基部欠損	②-2
19	SC3	鏃型鏃	チャート	(2.45)	(1.45)	0.30	(0.70)	脚部欠損	②-6
21	SI5	石皿	砂岩	18.60	(12.7)	(4.5)	（1634.7）	被熱痕あり	③― 32
28	SI6	二次加工剥片	頁岩石	2.90	1.30	0.70	1.70		②-3
30	SI10	スクレイパー　？	凝石堆積岩	(4.80)	(5.65)	(0.60)	(15.30)	上半部欠損	②-4
32	SI11	打製石鏃	チャート	1.70	1.40	3.20	0.50	鏃形鏃	②-5
36	SI20	尖頭状石器	粘板岩	3.40	3.00	0.60	4.50		②-7

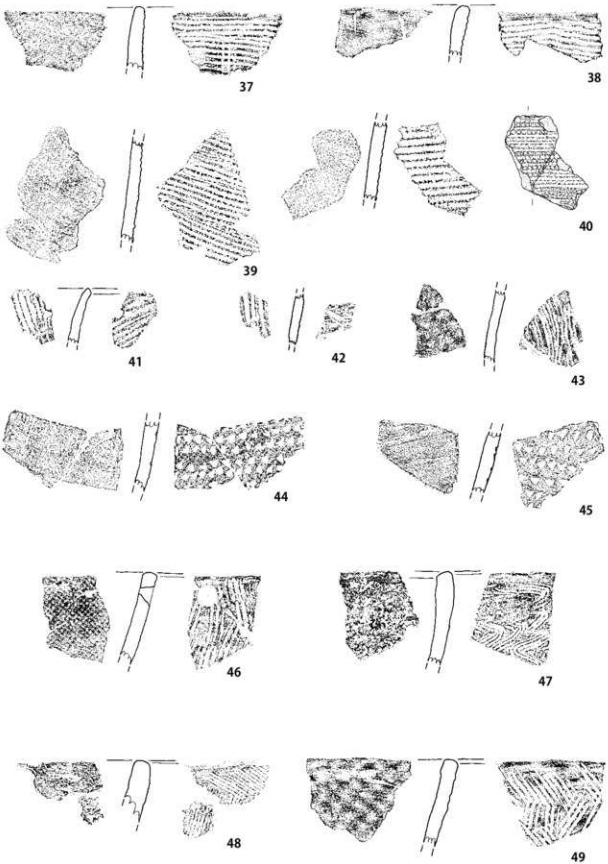
第３節　遺物について

Ⅰ　出土土器について

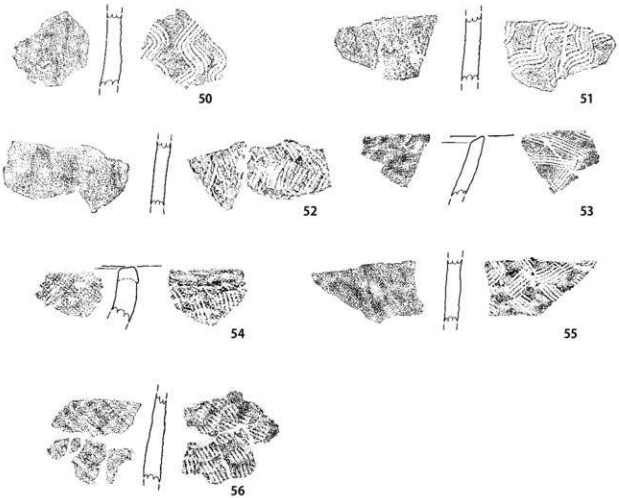
Ⅶ層からⅨ層にかけて出土し、大半がⅧ層から出土している。特に出土が多いのはⅧ層中層である。丘陵地の頂部からやや下がった位置から多く分布しており、傾斜が強くなる斜面下側については出土が少なくなる。土器の出土総点数2,381点中、文様・器形により分類が可能であった1,962点で分布図を作成した。土器の出土割合は塞ノ神式土器が約80％を占めている。そのうち撚糸により施文を行っているものが半数以上を占めており、調査区中央から東側に万遍なく分布している。押型文土器は184点出土しており、調査区中央付近に分布のまとまりが見える。その他円筒形土器、桑ノ丸土器等は出土量が少なく、出土位置も点在していた。丘陵地の頂部付近については、削平により詳細は不明であるが、遺構密度から考えると、削平前は調査区中央付近と同等か、やや少ない分布であったことが予想される。



第23図　縄文時代早期土器分布図



第 24 図　縄文時代早期包含層出土遺物①（S=1/3）



第 25 図　縄文時代早期包含層出土遺物②（S=1/3）

円筒形土器（37 ～ 43）

37 ～ 43 は器形が円筒を呈し、条痕文を施す一群である。37・38 は横位、39 ～ 41・43 は斜位の条痕文である。40 は横位に貝殻を小刻みに押し付けて施文している。41 は穿孔を持ち、牛のスネ火山灰下部の直下から出土している。

下剥峰式土器（44・45）

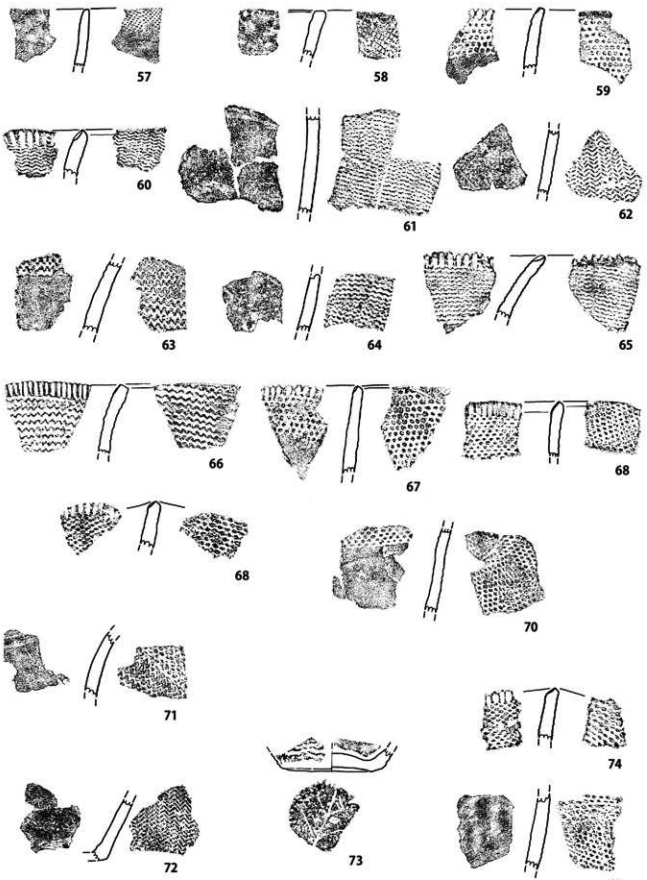
器形がバケツ状で、外面に刺突文を施す一群である。44・45 は竹状工具による刺突を施し、内面はナデ調整である。

桑ノ丸式土器（46 ～ 56）

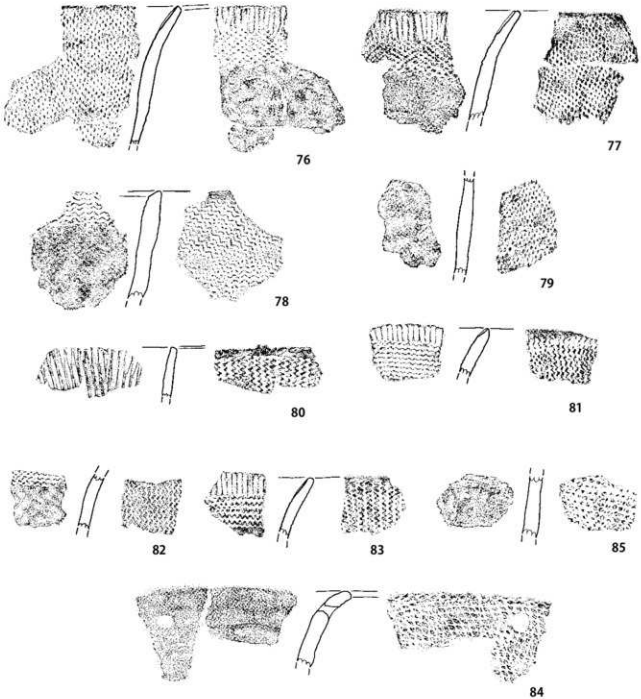
器形はバケツ状で、口縁部がやや内反する一群である。櫛状工具による鋸歯状文もしくは波状文を持つ。46 は穿孔を持つ。

押型文土器（57 ～ 85）

内外面に楕円形、山形、格子状の文様を施す一群である。口縁部は外反するものがほどんどであるが、一部直立するものもみられる。口縁部内面は横位の押型文を施した後、縁に原体を押し付けている。外面



第 26 図　縄文時代早期包含層出土遺物③（S=1/3）

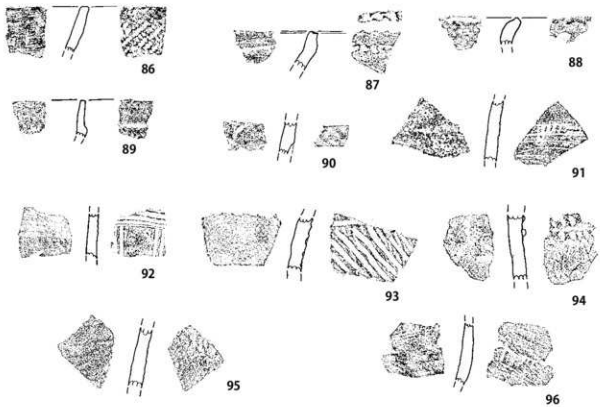


第 27 図　縄文時代早期包含層出土遺物④（S=1/3）

文様は横位もしくは斜位で、縦位のものも少量見受けられる。57 は口縁部上部に緻密な楕円押型文を保施す。57 自体は一括遺物であるが、Ⅸ層から同一個体と思われる口縁部片が出土している。58 は口縁部のやや下部から楕円押型を施文し、内面はナデ調整である。59 ～ 66 は外面の施文が横位である。73 は木の葉底で底径 62㎜を測る。74 ～ 79 は横位～斜位施文である。80 ～ 82 は縦位の押型文を施す。84・85 は文様が粗大である。また、小片のため図化はしていないが、楕円押型文を平らに成形された口唇部まで施文するものもあり、桑ノ丸器形の押型文土器の可能性がある。

縄文、刺突を持つ土器（86 ～ 91）

86 ～ 89 は口縁部である。86 は外面に縄文施文を持つ。87 は口唇部が鋸歯状で外面に刺突を施す。



第 28 図　縄文時代早期包含層出土遺物⑤（S=1/3）

88 は手捏風の土器で施文はない。89 は赤褐色の胎土で隆帯を持つ。90・91 は胴部片で 91 は浅い沈線を施し、一部に刺突を持つ。

手向山式土器（92 ～ 96）

92 は底部付近で二条の沈線を施す。93 は押型の後に沈線を施す。94・95 は外器面に薄い山形押型文を施している。4 は刻目のある突帯を持つ。96 は縦横に沈線を施す。

平栫式土器（97 ～ 100）

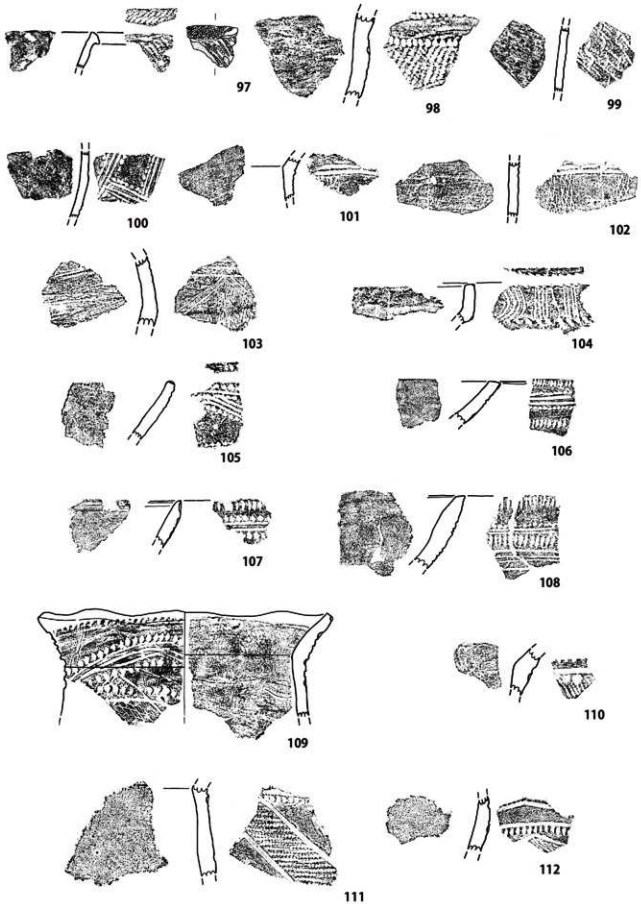
胴部外面に縄文を施文し、口縁部は肥厚させて沈線文や連点文を施す。97 は口縁部である。99 は縄文を施した後に結束縄文を施文する。

塞ノ神式土器（101 ～ 258）

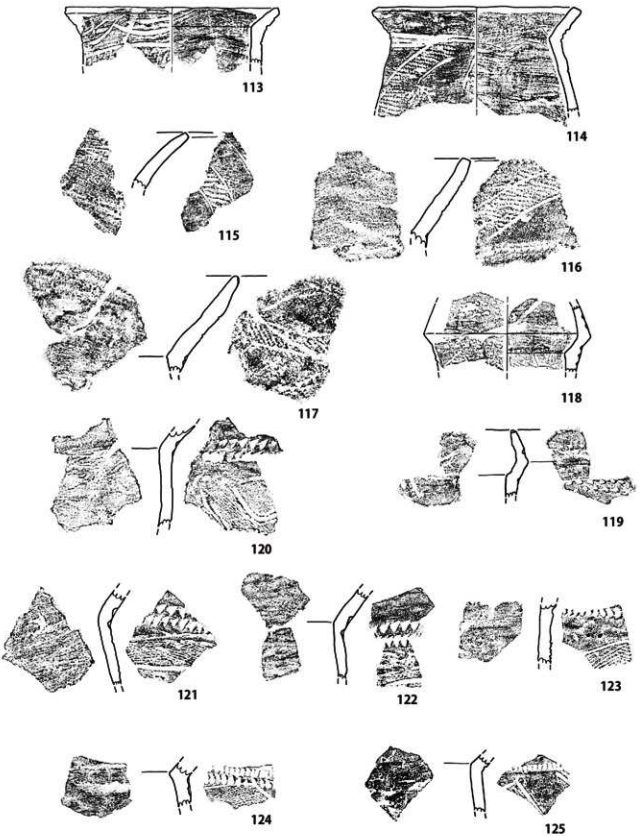
101 ～ 103 は縦位の網目状の撚糸文を施す一群である。口縁部がくの字状に開くラッパ状の器形である。101・102 は頸部付近に横方向の沈線を 2 条施し、その下に縦方向に撚糸文を施文する。103 は頸部に横方向の沈線を 2 条施し、その沈線から胴部に向けて左右斜め方向に沈線を施す。斜め方向の沈線の交点付近から縦方向に撚糸文を施す。

104 ～ 117 は口縁部から頸部で、口縁部に沈線文や、沈線文の両脇に連続刺突文を施す一群である。104 は縦方向に沈線を施す。105 ～ 108 は口縁部に沈線を施し、その周囲に刺突文を施し、平栫式土器に近い時期のものであると思われる。109 ～ 112 は口縁部に沈線と刺突文を持ち、胴部は沈線区画内に撚糸文を持つ。　113 は口縁部に沈線を持ち、頸部付近に刺突文を持つ。114 は頸部に沈線を持ち、口縁部は無文である。115 ～ 117 は口縁部に沈線に囲まれた縄文を持ち、116・117 は頸部に刺突文を持つ。

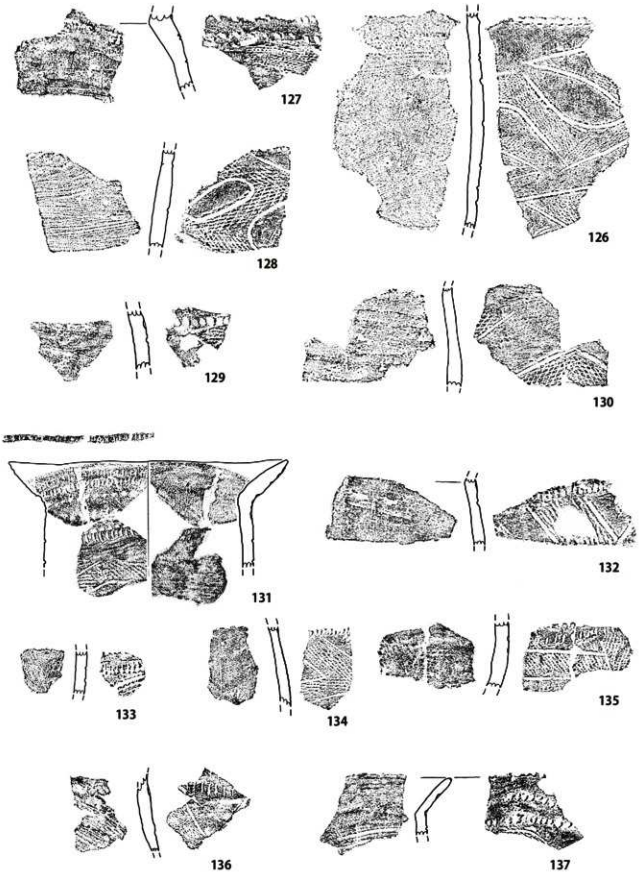
118 ～ 149 は口縁部から頸部にかけて貝殻等による刺突を施し、胴部に沈線区画内に撚糸・縄文を施



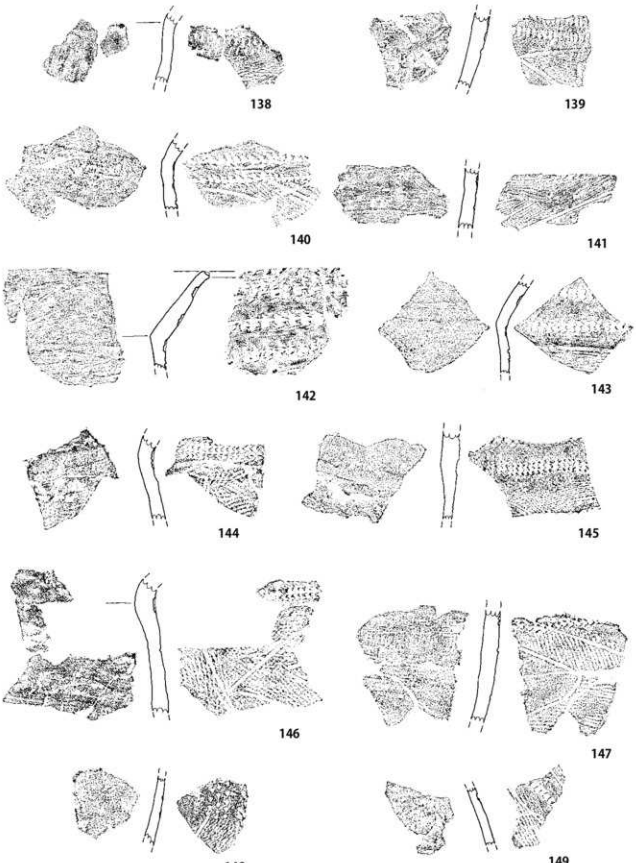
第 29 図　縄文時代早期包含層出土遺物⑥（S=1/3）



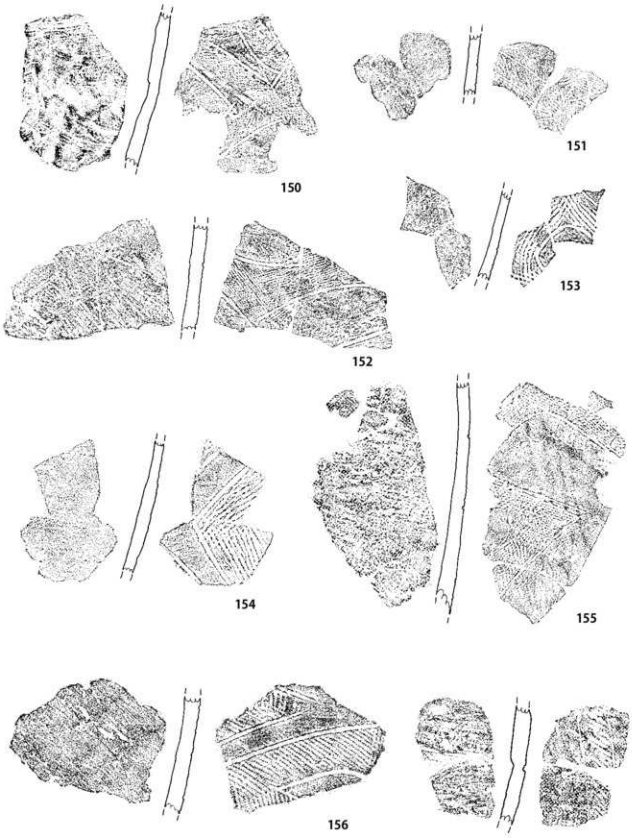
第30図　縄文時代早期包含層出土遺物⑦（S=1/3）



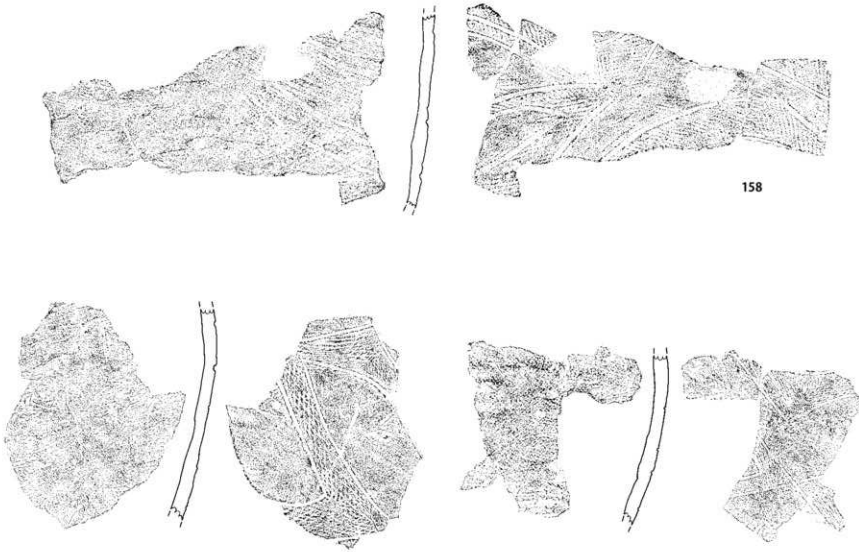
第31図　縄文時代早期包含層出土遺物⑧（S=1/3）



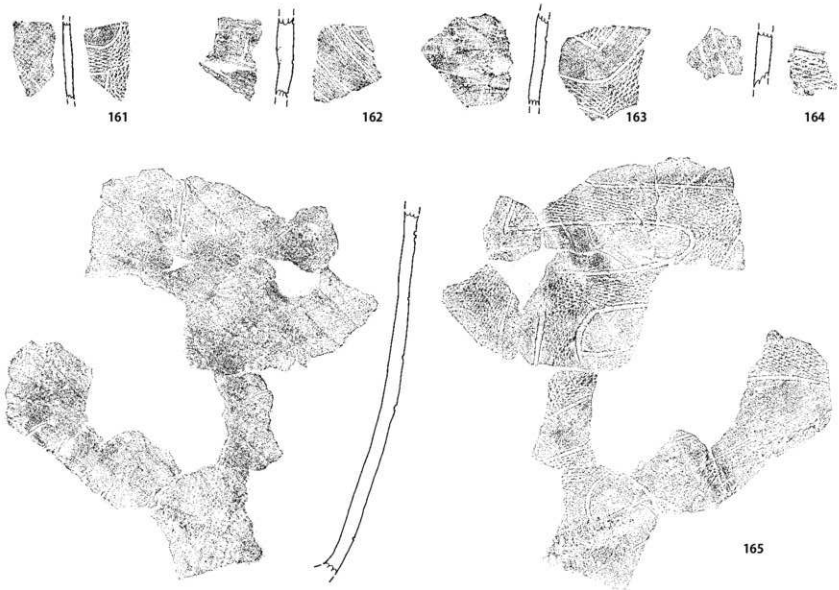
第32図　縄文時代早期包含層出土遺物⑨（S=1/3）



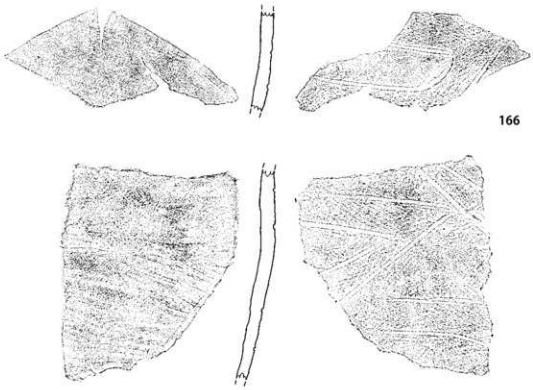
第33図　縄文時代早期包含層出土遺物⑩（S=1/3）



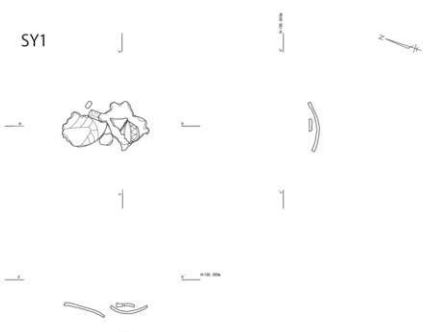
第 34 図　縄文時代早期包含層出土遺物① (S=1/3)



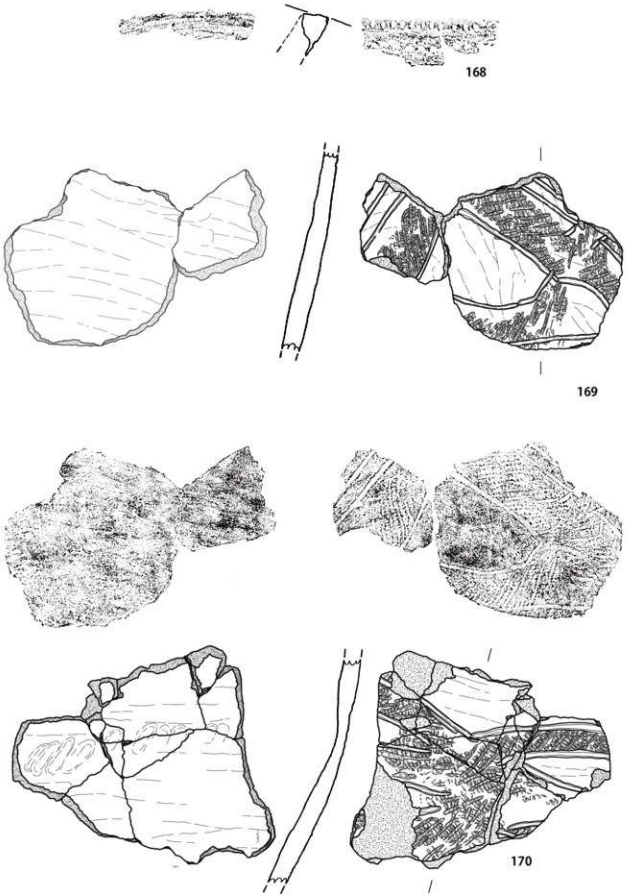
第 35 図　縄文時代早期包含層出土遺物②（S=1/3）



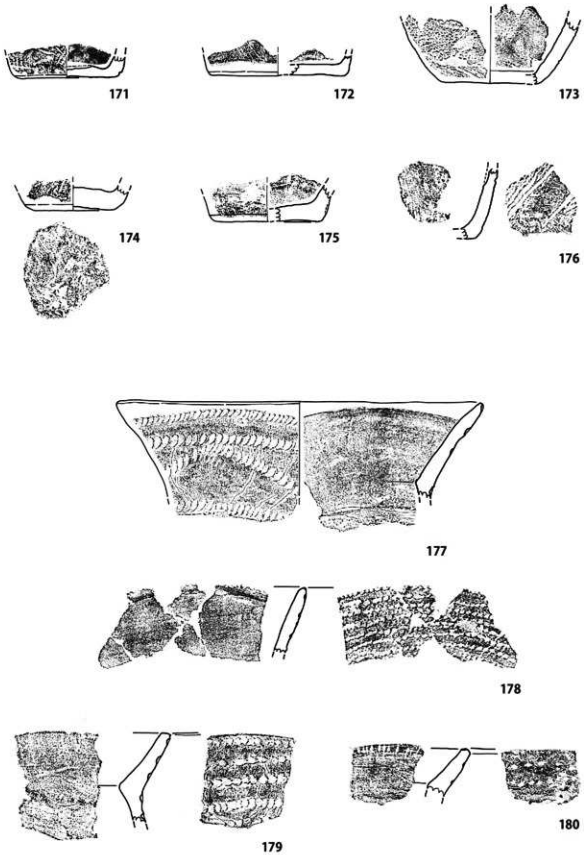
第 36 図　縄文時代早期包含層出土遺物⑬（S=1/3）



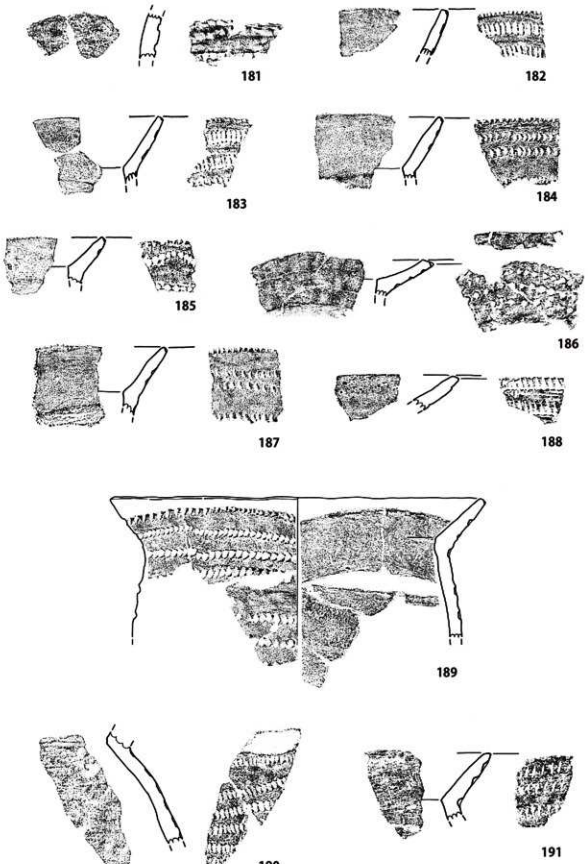
第 37 図　縄文時代早期遺物出土状況①（S=1/20）



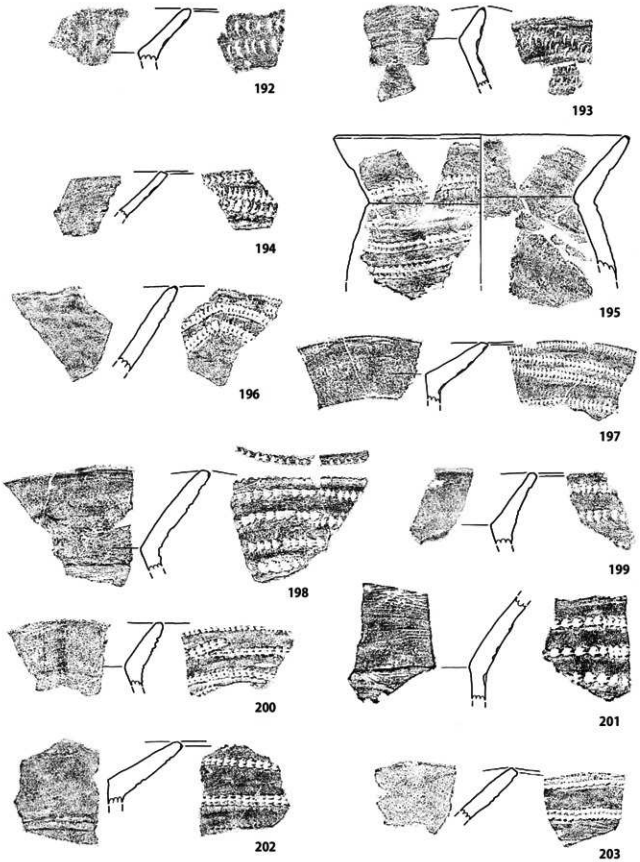
第38図　縄文時代早期包含層出土遺物⑭（S=1/3）



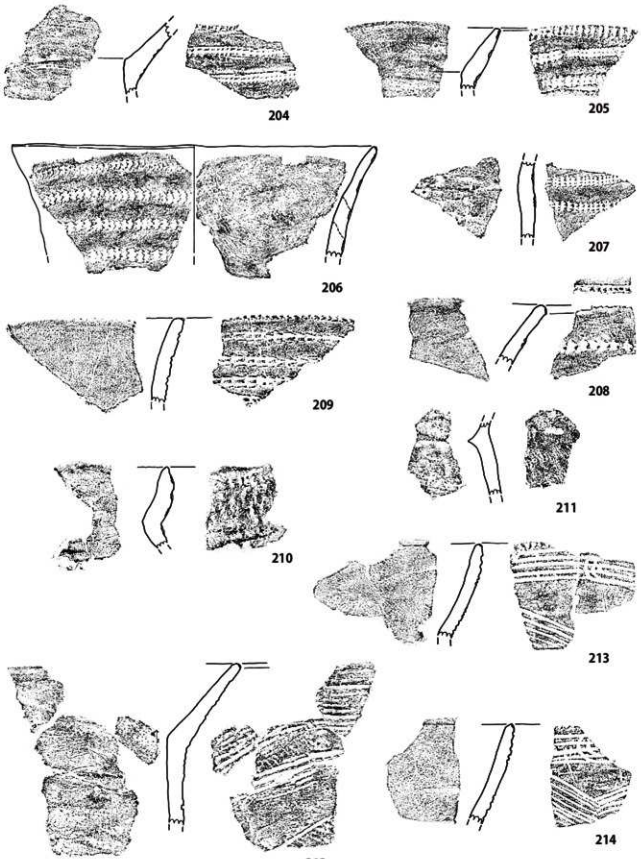
第 39 図　縄文時代早期包含層出土遺物㊤（S=1/3）



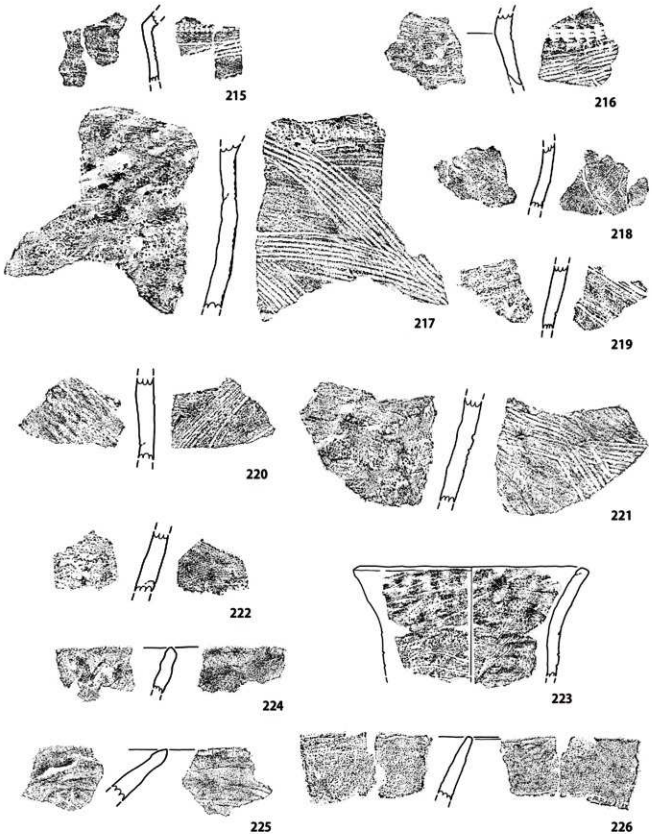
第 40 図　縄文時代早期包含層出土遺物⑯（S=1/3）



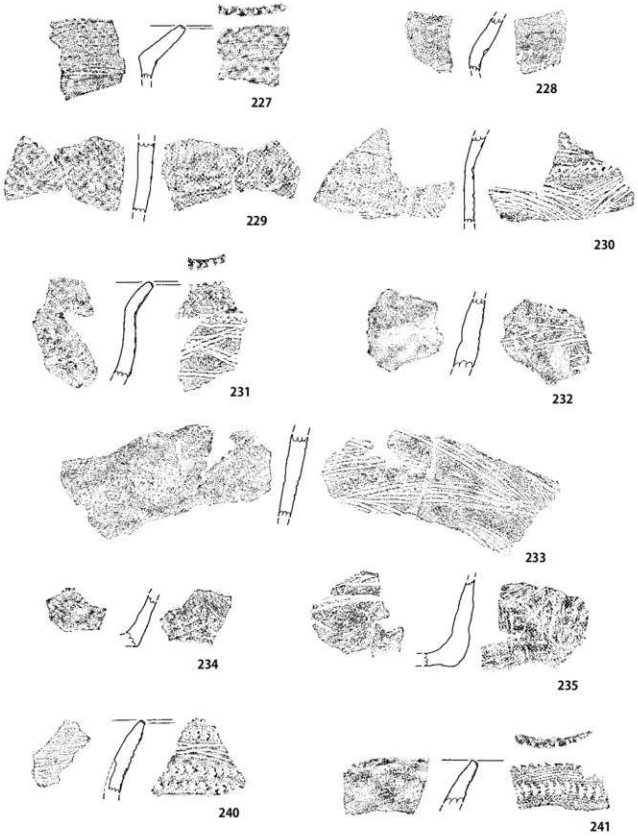
第41図　縄文時代早期包含層出土遺物㊀（S=1/3）



第 42 図　縄文時代早期包含層出土遺物⑱（S=1/3）

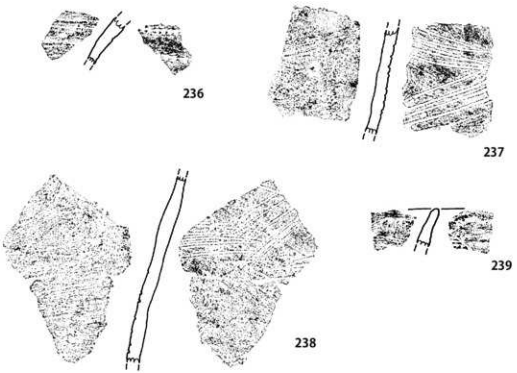


第43図　縄文時代早期包含層出土遺物⑩（S=1/3）

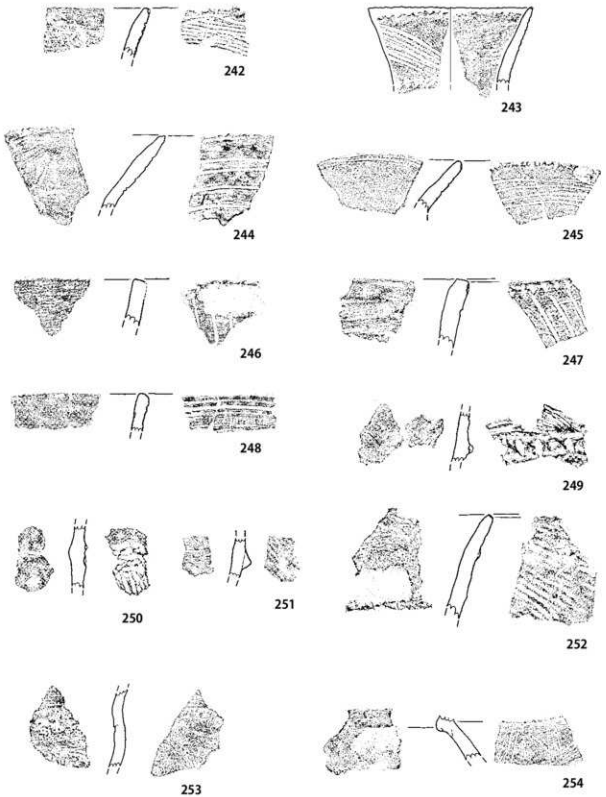


第 44 図　縄文時代早期包含層出土遺物㉙（S=1/3）

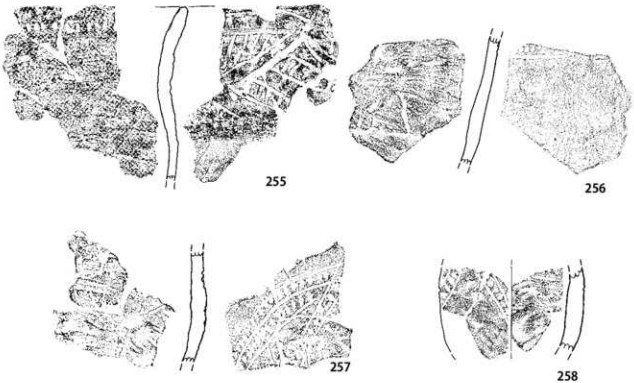
第 45 図　縄文時代早期包含層遺物出土状況（S=1/20）



第 46 図　縄文時代早期包含層出土遺物②（S=1/3）



第 47 図　縄文時代早期包含層出土遺物②（S=1/3）



第 48 図　縄文時代早期包含層出土遺物㉒（S=1/3）

す一群である。118・119 は棒状工具による刺突文である。120 ～ 122 は竹状工具による刺突である。131 ～ 147 は貝殻による刺突を施す。148・149 は壺と思われる。

150 ～ 176 は胴部片で、沈線で区画した内部に撚糸文や縄文を施す一群である。168 ～ 170 は土器が横倒しでつぶれたような形で出土した（第 37 図）。サブトレンチを設定して、確認を行ったが、土坑等は確認できなかった。168 は口縁部である。169・17 は撚糸と縄文を交互に施文している。171 ～ 176 は底部である。171 は底径 16cmを測る 174 は底面に撚糸の痕跡を残す。。

177 ～ 211 は口縁部から頸部で、刺突文が施される一群である。177 ～ 190 は棒状工具による刺突である。191 ～ 211 は貝殻による刺突である。211 は頸部片で、粘土の継目で口縁部がはがれていると解釈し図化したが、上下逆の可能性もある。

212 ～ 214 は口縁部に口縁部に貝殻条痕による施文を施す。212 は頸部に貝殻刺突文を施し、胴部は沈線区画内に縄文を施す。213･214 は口縁部最上部に半円状に沈線を施しており、同一個体と思われる。

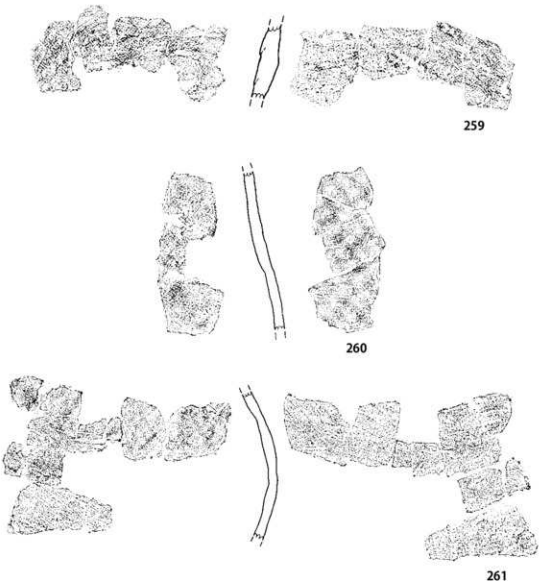
215 ～ 217 は口縁部に刺突文を施し、胴部に沈線区画内に貝殻条痕を施文する一群である。口縁部の刺突は貝殻による。

218 ～ 222 は胴部片で、沈線区画内に貝殻条痕を施す。沈線区画内の条痕は、貝殻の条線が分厚いものと細いものがある。

223 ～ 231 は口縁部～胴部片である。223 は口縁部に刺突文を施し、胴部に沈線を施す。224 ～ 229 は口縁部片で、頸部付近に刺突を施す。230・231 は口縁部～頸部に貝殻による刺突を施し、胴部に貝殻条痕を施す。231 は小型の土器と思われる。232 ～ 235、237・238 は胴部～底部片で貝殻条痕を施す。236 ～ 239 は少数の礫と土器が共伴して出土した（第 45 図）。確認のためにサブトレンチを掘削したが、遺構は確認できなかった。

240 ～ 243 は口縁部に貝殻条痕を施し、その上に刺突文を持つ一群である。

244 ～ 248 は口縁部に沈線を持つ一群である。244・245・248 は横方向に沈線を施す。246・247 は縦方向に沈線を施し、口縁部の最上部に貝殻刺突を施すもので、同一個体と思われる。



第 49 図　縄文時代早期包含層出土遺物㉑（S=1/3）

249 ～ 252 は口縁部～頸部に貝殻条痕を持つ一群である。249・250 はキザミの入った突帯と、貝殻条痕を持つ。251・252 は胴部に縄文を施す。

253・254 は壺型である。254 は縦方向に沈線を持つ。

255 ～ 258 は沈線区画内に刺突や沈線を施す一群である。257・258 は壺である。

無文土器（259 ～ 261）

259 ～ 261 は文様を持たない一群である。260・261 は壺と思われる。

Ⅱ　出土石器について

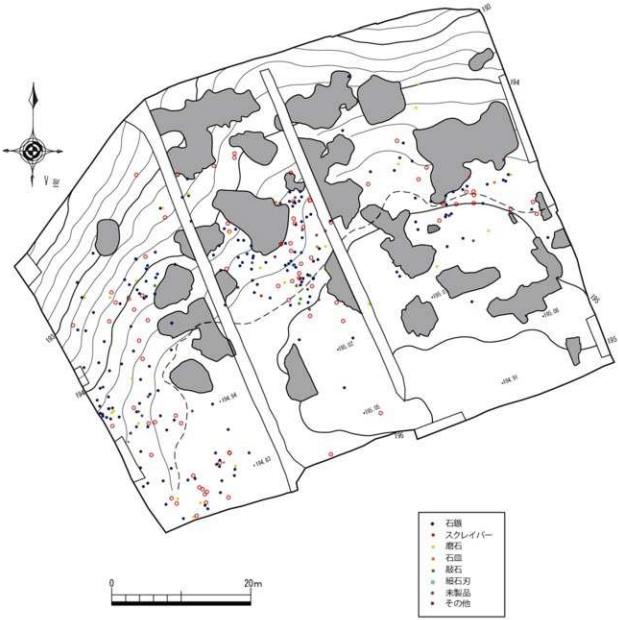
当遺跡においては特に黒曜石、チャートの出土が目立つ。黒曜石は 3025 点 4086g、チャート 750 点 951 g が出土している。特に黒曜石のうち 1483 点 1746g は姫島産である。その次に多く出土した桑ノ木津留産の他、西北九州、針尾島産出のものも出土した。

その他の石材としては、頁岩 76 点 410 g、玉髄 33 点 73g、安山岩 40 点 369 g が出土している。

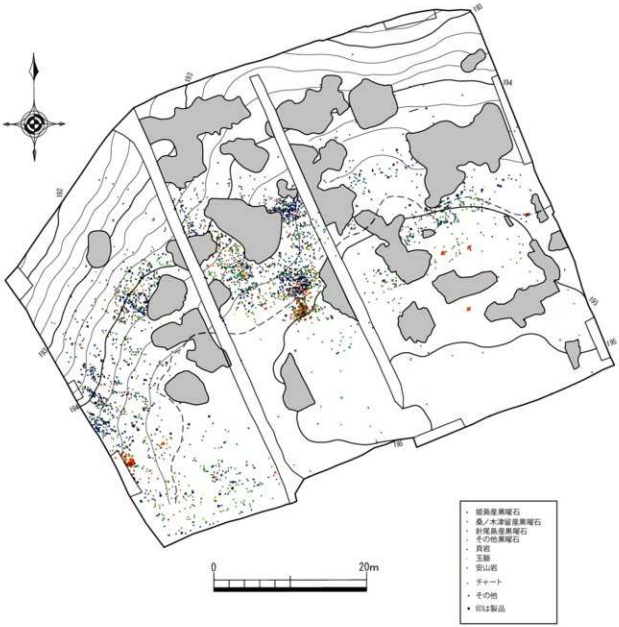
使用石材については肉眼で観察し分類した。製品類の分布はややまとまりが見える程度であるが、剥片類は姫島産黒曜石、チャートは分布に明らかなまとまりがあることが分かる。また、剥片の集中から10mほど離れた位置から、桑ノ木津留産の黒曜石の5cmほどの塊が8点出土しており、石器製作の石材として持ち込んだ石核を打ち割り廃棄したと思われる。

石鏃（262～325）

剥片を素材とし、両側縁部に押圧剥離を施す、三角形状もしくは五角形状の石器群である。基部の形と加工状況から4つに分類した。総数で178点出土しており、そのうち、64点図化している。石材は姫島産の黒曜石が多く使用されている。石材別の分類については第　表のとおりである。基部欠損等により分類できないものは分類不可とした。



第50図　縄文時代早期包含層石製品　種別別出土分布図



第 51 図　縄文時代早期包含層剥片等　石材別出土分布図

262 ～ 277 は 1 類で抉りが深く、特徴的な脚部を有する一群である。269 は攪乱土から出土であるが、川路山遺跡内から出土した石鏃で最も長軸が長いものである。

278 ～ 302 は 2 類で、基部に一定の抉りを持つ一群である。

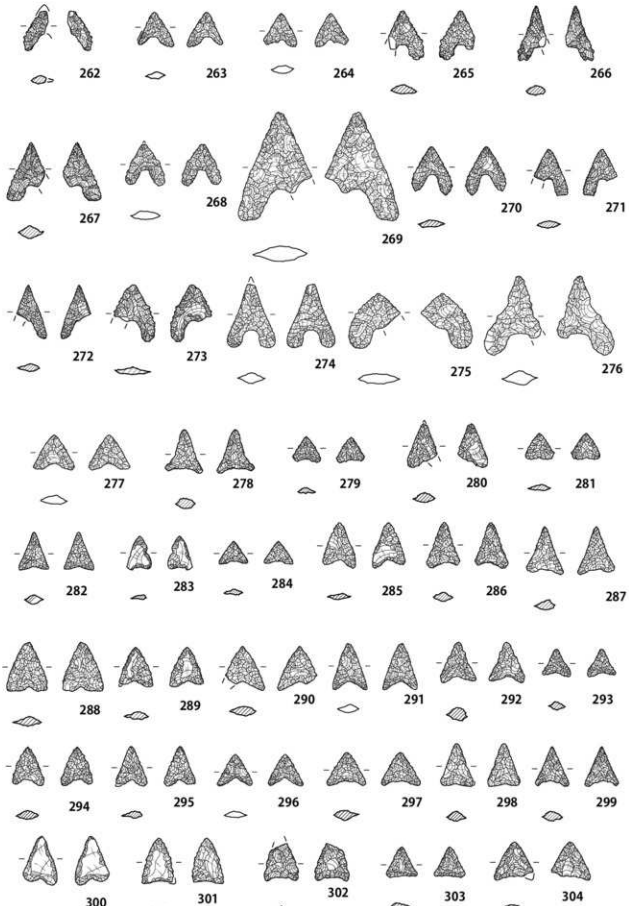
303 ～ 308 は 3 類で、基部の抉りが浅いものもしくはないものである。

309 ～ 324 は 4 類で、剥片の面を残す一群である。

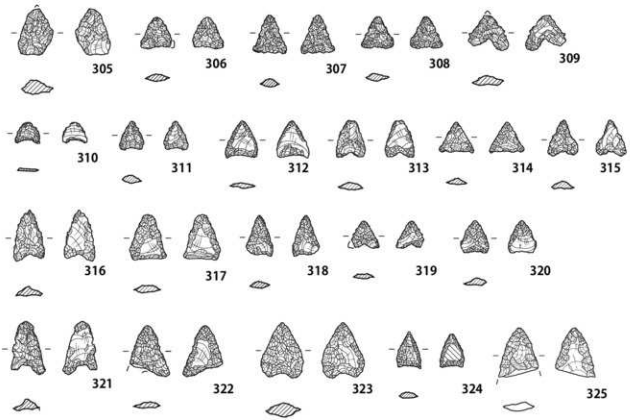
325 は基部破損により分類ができないが、砂岩製である。

第 4 表　石鏃石材別分類表

	1 類	2 類	3 類	4 類	分類不可	小計
黒曜石（姫島産）	1	29	6	28	21	85
黒曜石（桑ノ木津留産）	1	6	0	2	10	19
黒曜石（その他）	3	21	3	4	11	42
チャート	11	4	0	0	0	19
頁岩	0	4	0	0	0	4
その他石材	0	5	0	4	0	9
合計	16	69	10	41	42	178



第 52 図　縄文早期包含層出土石器①（S=2/3）



第 53 図　縄文早期包含層出土石器②（S=2/3）

トロトロ石器（326）

剥片を素材とし、表面を研磨している。チャート製で、1 点出土している。

石匙（327）

剥片を素材とし、押圧剥離により両面調整を行った、つまみ部と刃部を有する石器を石匙とした。石匙で、頁岩製である。取っ手部分と刃部を持つ。裏面の片側は割れ面を残している。

スクレイパー（328~332）

剥片を素材として、縁部に調整を施して刃部を作り出したものをスクレイパーとした。～、チャート製、頁岩製、安山岩製のものがある。3 点出土している。

その他石器（333~336）

335 は石斧調整剥片で安山岩製である。表面に研磨痕がみられる。1 点出土している。

333 は石錐と思われ、チャート製である。334 は安山岩製で、石錐もしくは尖頭状石器と思われる。

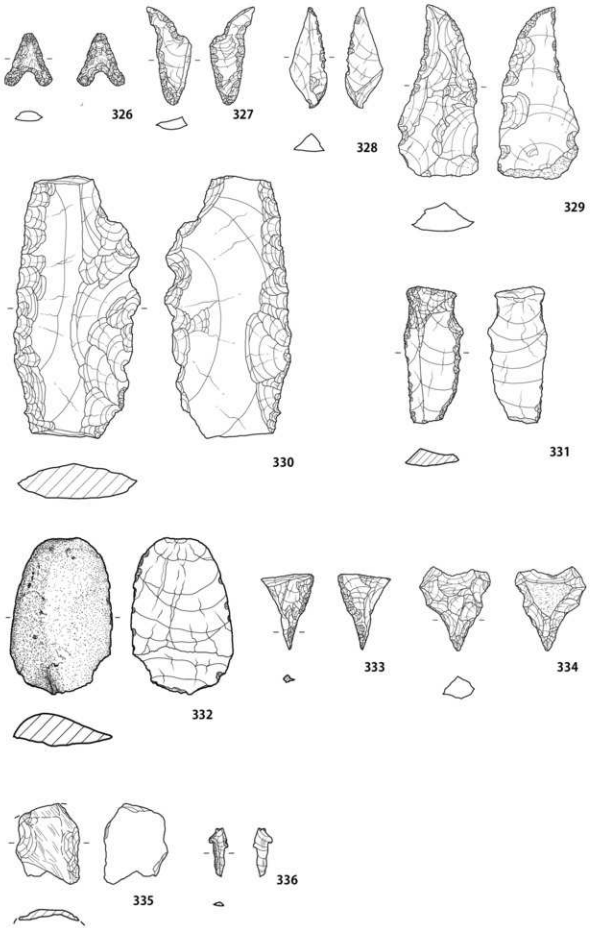
336 は黒曜石製の細石刃と思われる。

磨石・敲石　（337 ～ 355）

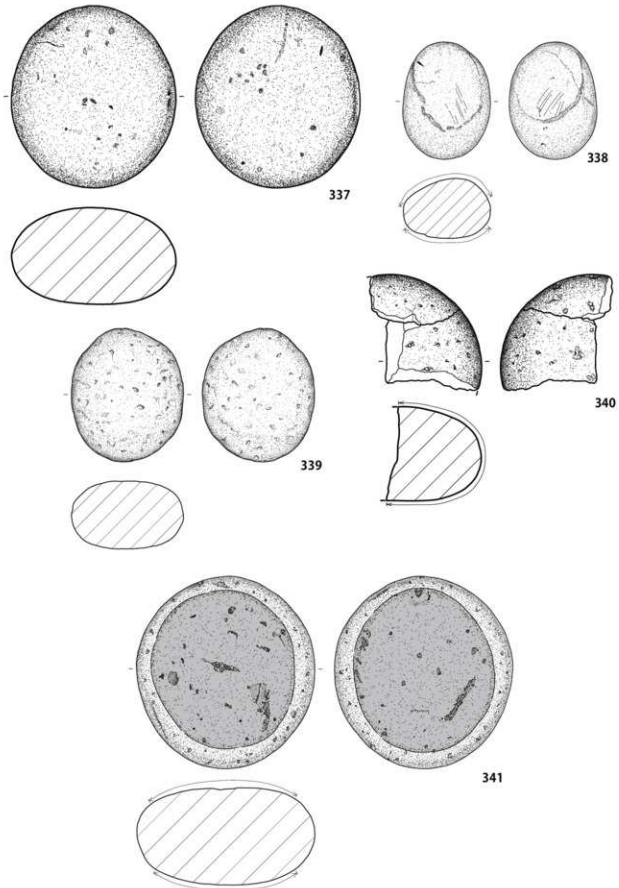
礫を素材とし、全面もしくは一部に平坦面・磨り面を持つものを磨石、敲打痕をもつものを敲石とした。337 ～ 352 は磨石で、断面形が円状のものと扁平なものがある。石材は霧島系花崗岩か砂岩である。

349 ～ 352 は磨石であるが一部に敲打痕が認められる。348 は接合資料で、隣接して出土した。

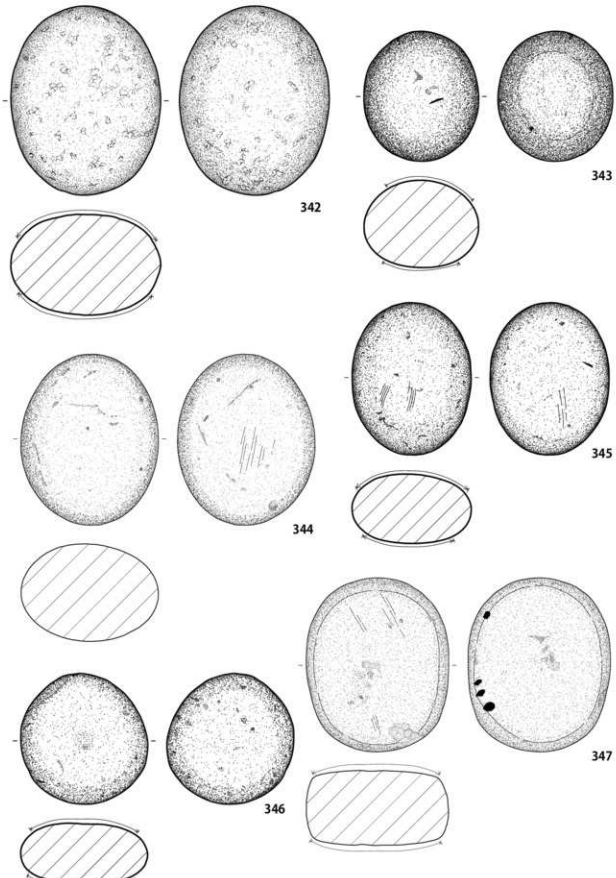
353 ～ 355 は敲石である。石の先端に敲打痕を持つ。



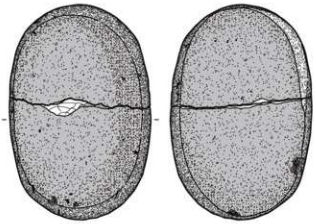
第 54 図　縄文早期包含層出土石器③（S=2/3）

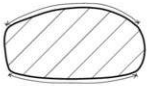


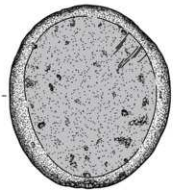
第 55 図　縄文早期包含層出土石器④（S=1/2）

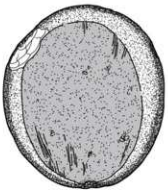


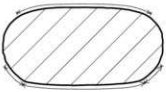
第 56 図　縄文早期包含層出土石器⑤（S=1/2）

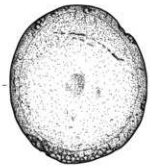








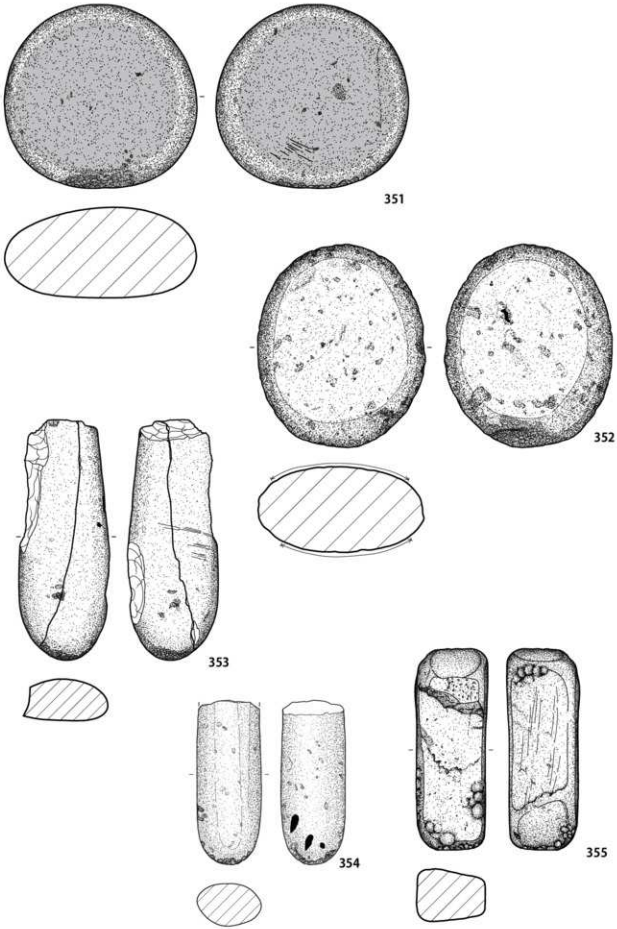




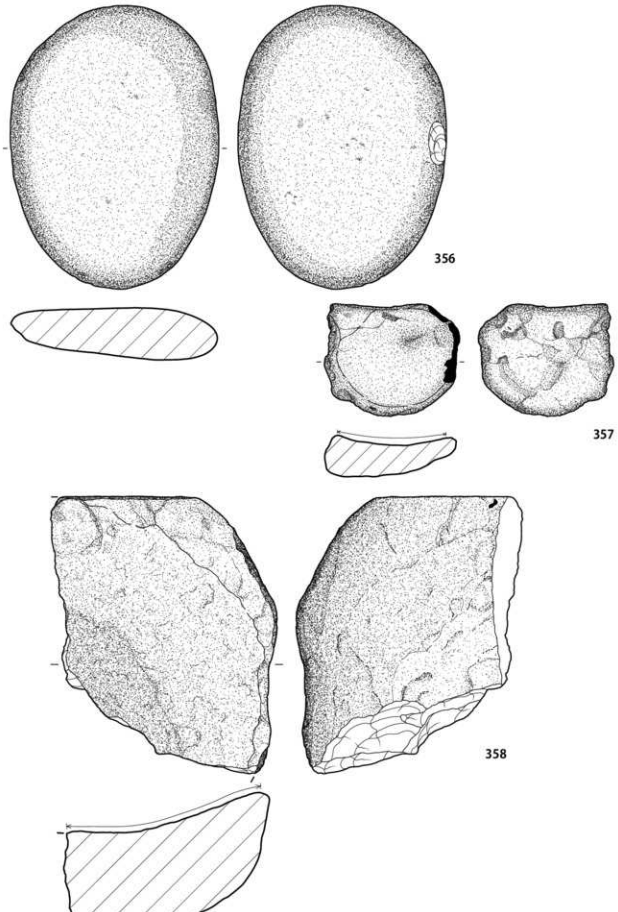
第 57 図　縄文早期包含層出土石器⑥（S=1/2）

石皿（356 ～ 358）

礫を使用し、平坦面や凹面を持つものを石皿とした。357・358 は凹面を持つ。3 点とも砂岩製である。



第 58 図　縄文早期包含層出土石器⑦（S=1/2）



第 59 図　縄文早期包含層出土石器⑧（S=1/2）

第５表　縄文時代早期包含層出土土器観察表

番号	出土地	出土層位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 雲母	胎土 角閃石	胎土 金雲母	胎土 長石類	胎土 軽石	胎土 白色鉱物	胎土 黒色鉱物	胎土 赤色鉱物	備考	実測No.
37	H5	埋下	日縁条痕文	ナデ	2.5 Y 7/3 浅黄	10YR6/4 にぶい黄橙	○			○		○	○		○		150
38	H4・H4-3	埋	日縁条痕文　ナデ	ナデ	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	○			○		○	○		○		149
39	H4	埋	日縁条痕文	ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	○						○	○			148
40	E4	埋	日縁押引文?	ナデ	7.5YR5/3 にぶい黄	5YR5/4 にぶい赤褐	○							○			151
41	C4	埋	日縁条痕文	日縁条痕文	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○						○	○		穿孔あり	145
42	B3	埋	日縁条痕文	日縁条痕文	7.5YR6/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○		○				○	○			144
43	C6	埋	沈線文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙		○					○	○	○		146
44	E4	埋	刺突文　工具ナデ	工具ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐		○					○	○			264
45	E2	埋	刺突文　工具ナデ	工具ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐		○						○	○		263
46	G4	埋	日縁条痕文	ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙		○						○	○	穿孔あり	125
47	E4	埋	波状文　ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○						○			121
48	F4	埋	波状文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○			○	○			○		123
49	H4	埋	日縁条痕文	ナデ	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/4 褐	○	○						○	○		124
50	D3	埋	波線文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○					○		○			62
51	E4	埋	波線文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙					○			○	○		63
52	F4	埋	短い鋸歯状文	丁寧なナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/2 灰褐								○	○		81
53	カクラン		日縁条痕文 ナデ	ナデ	10YR3/1 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○					○				127
54	一括		日縁条痕文　ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○			○		○	○	○	○		122
55	F3	埋	日縁条痕文	ナデ	10YR7/6 明黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○						○			85
56	E5	埋	日縁文	ナデ　工具ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	○			○		○		○	○		126
57	一括		楕円押型文　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄褐	○		○				○				90
58	C5	埋	押形格子文	ナデ	5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○	○				○				172
59	H4	埋	楕円押型文　ナデ	楕円押型文　櫛状文　ナデ	7.5YR4/6 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○							○		スス付着	86
60	G4	埋	山形押型文	櫛状文　山形押型文	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/6 にぶい橙	○		○	○		○	○	○			118
61	E4・F4	埋	山形押型文	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	○	○					○				108
62	B5	埋	山形押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○							○		スス付着	110
63	F5	埋	山形押型文	山形押型文・ナデ	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/3 褐	○	○	○				○				107
64	E4	埋	山形押型文	ナデ	7.5YR7/6 橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○	○								104
65	F4	埋	山形押型文	山形押型文　櫛状文	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○										113
66	H4	埋	山形押型文	山形押型文　櫛状文	2.5 Y 7/3 浅黄	10YR7/4 にぶい黄橙	○		○					○			119
67	D6	埋	楕円押型文	楕円押型文　櫛状文　ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○						○			88
68	C5	埋	楕円押型文	楕円押型文　櫛状文	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○	○					○			89
69	C3	埋	楕円押型文	楕円押型文　櫛状文	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐		○					○	○	○	ススあり	338
70	E2・E4	埋	楕円押型文	楕円押型文　ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○	○			○					87
71	C6	埋	山形押型文	ナデ	10YR3/2 黒褐	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○	○				○	○	○		105
72	E4	埋	山形押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○										109
73	C6	埋	山形押型文　ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○	○			○	○	○	○	木の葉底	101
74	G4	埋	楕円押型文	楕円押型文	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○			○	○			波状口縁	97
75	G5	埋	楕円押型文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙							○	○	○	煤変あり	99
76	H4・G4	埋	楕円押型文	楕円押型文　櫛状文　ナデ	7.5YR6/6 橙	10YR6/6 明黄褐	○	○	○								92
77	H3	埋	楕円押型文	楕円押型文　櫛状文　ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○	○				○		○		94
78	G4	埋	山形押型文	山形押型文　ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○						○	○	○		103
79	G4	埋	楕円押型文	ナデ	5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙		○		○			○	○	○		100
80	C5	埋	山形押型文　ナデ	櫛状文	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○	○				○	○			114
81	D6	埋	山形押型文　ナデ	山形押型文　櫛状文	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/4 黄褐		○			○	○					116
82	E4	埋	山形押型文	山形押型文　ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙		○		○				○			106
83	G4	埋	山形押型文　ナデ	山形押型文　櫛状文　ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙		○		○		○					117
84	C6	埋	楕円押型文	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y7/3 浅黄	○	○						○			98
85	E3・E4	埋	楕円押型文	ナデ	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y7/3 浅黄	○	○			○	○	○	○	○	穿孔あり	93
86	カクラン		縄文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	○						○	○	○		182
87	25-1		日縁押引文　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○		○		○		○	○	○		177
88	E-4		ナデ	ナデ	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/2 灰黄	○	○		○			○	○			183
89	C3	埋	隆起帯文　ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○		○				○	○			174
90	C6	埋	沈線文　ナデ	ナデ	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○					○	○	○		178
91	D5-4		沈線文　ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR3/1 黒褐	○						○	○		煤変あり	176
92	E4	埋	沈線文　ナデ	工具ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	○					○	○	○			169

番号	出土地	出土層位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	雲母	角閃石	金雲母	鉱物粒	輝石	白色鉱物	黒色鉱物	赤色鉱物	備考	実測No.
93	G1	VII	沈線文	ナデ	2.5 Y 7/3 浅黄	2.5 Y 7/3 浅黄	○	○					○	○			171
94	C3	VII	刺突文 押型文	ナデ	2.5 Y 7/3 浅黄	10YR7/3 にぶい黄橙	○		○	○			○	○	○		133
95	C2	VII	山形押型文 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○	○					○	○		265
96	G2-2	VII	沈線文 ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	○	○					○	○	○		175
97	D3	VII	撫糸文 ナデ	ナデ	2.5YG/2 灰黄	5YG/2 灰オリーブ	○		○				○				129
98	F3	VII	刺突文 縄文 沈線文 ナデ	ナデ	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/6 橙	○	○							○		130
99	G3	VII	撫糸文 結節縄文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○		○		○		○			136
100	E4	VII	沈線文 刺突文 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR にぶい褐 5/3	○									黒変あり	134
101	E3	VII	沈線文 撫糸文 ナデ	丁寧なナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙		○	○				○	○			165
102	F3	VII	沈線文 撫糸文	丁寧なナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○							スス付着	167
103	H4	VII	沈線文 撫糸文	ナデ	7.5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○						○			168
104	E3 G3	VII	口縁強反文	ナデ	2.5 Y 7/3 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	○	○	○				○	○			179
105	F1	VII	口縁強反文 刺突文 沈線文 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○	○				○		○		135
106	H4	VII	口縁刺突文 沈線文 凹点文 ナデ	丁寧なナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	○	○				○					166
107	C4	VII	刺突文 沈線文 ナデ	丁寧なナデ ナデ	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR にぶい橙 3/4	○	○					○				296
108	C6	VII	刺突文 沈線文 撫糸文 ナデ	口縁強反文 ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○									244
109	B3	VII	刺突文 沈線文 撫糸文 キザミ ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○			○						波状口縁	299
110	一括		刺突文 沈線文 撫糸文 ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	○	○		○			○	○			262
111	B4	VII	沈線文 撫糸文 刺突文 ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○						○	○		229
112	B4	VII	口縁押引文 沈線 撫糸文 刺突文 ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○		○							246
113	C3 B2 G2	VII	沈線文 刺突文 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/6 橙	○	○	○				○				137
114	C4	VII	沈線 撫糸文 ナデ	ナデ	7.5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙											231
115	F3	VII	撫糸文 沈線文 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○					○	○	○	○	340
116	C6	VII	口縁刺突文 撫糸文 口縁押引文 沈線文 ナデ	ナデ	2.5YR/3 淡黄	7.5YR/4 にぶい橙	○	○					○	○		○	285
117	C3 B5	VII	撫糸文 沈線文 口縁刺突文 ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y7/4 浅黄	○						○	○	○		284
118	B6	VII	刺突文 撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR6/1 褐灰	○	○			○	○				穿孔あり	307
119	B6	VII	刺突文 撫糸文 沈線文	ナデ	7.5YR7/3 にぶい橙	10YR6/1 褐灰	○	○			○	○				穿孔あり	307
120	C3 H3 I3	VII	刺突文 撫糸文 沈線文 ナデ	丁寧なナデ ナデ(横位)	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR5/6 明褐	○	○		○							221
121	C3 D3	VII	刺突文 撫糸文 沈線文 ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○							○	黒変あり	223
122	C3 C4	VII	刺突文 撫糸文 沈線文 ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○							220
123	E3	VII	口縁強反文 刺突文 沈線 ナデ	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	5Y5/2 灰オリーブ	○		○	○			○				234
124	D2	VII	刺突文 沈線文 ナデ	ナデ	5YR4/4 にぶい赤褐	7.5YR4/6 褐	○	○		○		○	○		○		238
125	B3	VII	刺突文 撫糸文 沈線文 ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○					○		○	○		317
126	E3	VII	撫糸文 刺突文 ナデ	ナデ	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR3/3 暗褐	○	○				○			○	スス付着	240
127	B5	VII	刺突文 沈線の中に撫糸文 ナデ	ナデ	5YR5/6 明赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○		○					222
128	C4	VII	沈線文 撫糸文 刺突文 ナデ	工具ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○									241
129	C3	VII	刺突文 撫糸文 沈線文 ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○				○		○	○		281
130	G3	VII	口縁強反文 沈線文 撫糸文 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○					○	○	○		315
131	F2 F3	VII	口縁文 口縁刺突文 沈線文 撫糸文 ナデ	ナデ	2.5YR/3 淡黄	10YR7/4 にぶい黄橙	○		○				○	○	○		271
132	F3	VII	刺突文 沈線文 撫糸文 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○				○	○	○	○		162
133	E1	VII	刺突文 沈線文 撫糸文 ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○								○	外塗り	249
134	C6	VII	口縁文 撫糸文 沈線文 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○			○							257
135	E3	VII	刺突文 撫糸文 ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○		○			○	○			230
136	C6	VII	爪型文 沈線文 撫糸文 ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○		○		○			○		224
137	H4	VII	刺突文 撫糸文 沈線 ナデ キザミ	ナデ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	○	○			○	○	○	○		スス付着	227

番号	出土地	出土層位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	胎土 輝石	胎土 角閃石	胎土 金雲母	胎土 褐鉄鉱	胎土 軽石	胎土 白色鉱物	胎土 黒色鉱物	胎土 赤色鉱物	備考	実測No.
138	C3	Ⅷ	口縁刺突文　撚糸文 ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙				○	○	○	○				158
139	B4	Ⅷ	刺突文　沈線文　撚糸 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○			○							255
140	D6　G2	Ⅷ	撚糸文後口縁文　撚糸文　沈線　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○				○	○	○			206
141	D6	Ⅷ	口縁押引文　撚糸文 沈線文　ナデ	ナデ	2.5 Y 4/2 暗灰黄	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○				○	○		○		277
142	H3	Ⅷ	口縁押引文　沈線文	ナデ	5YR7/4 にぶい橙	5YR6/6 橙		○	○				○			黒変あり	189
143	H3	Ⅷ	口縁文　撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	2.5 Y 7/3 浅黄	○			○	○					黒変あり	208
144	G1　C6	Ⅷ	口縁押引文　撚糸文	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○	○				○			○		313
145	H4	Ⅷ	口縁押引文　撚糸文 沈線文　ナデ	ナデ	2.5Y5/4 黄褐	2.5 Y 4/2 暗灰黄	○			○							188
146	C4　E3-1　D2-4	Ⅷ	口縁押引文　沈線文 撚糸文　ナデ	ナデ	2.5 Y 7/3 浅黄	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○				○			○		312
147	C3　B5	Ⅷ	口縁刺突文　撚糸文 沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○	○				○	○				286
148	B4	Ⅷ	刺突文　沈線文　撚糸 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○						○	○		261
149	C6	Ⅷ	口縁文　撚糸文　沈線 文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	○	○				○					256
150	H4	Ⅷ	沈線文　撚糸文　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙							○	○		ススト付着	226
151	B6	Ⅷ	沈線文　撚糸文　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○					○				273
152	E3	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/2 灰黄褐	○			○		○	○		○		274
153	E3　C4	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○				○	○	○	○	ススト付着	237
154	G3	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○				○	○	○			163
155	B5　C6	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐		○		○		○		○		ススト付着？	225
156		Ⅷ	沈線文　撚糸文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○	○					○	○		350
157	F3	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR3/3 暗赤褐	○					○	○	○	○	土偶あり	339
158	D6　D2　E4-1　B6	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	工具ナデ	7.5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○		○			○	○	○	○		233
159	C2　D6	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	○	○				○	○	○	○		316
160	F2　D3　F3	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	5YR4/6 赤褐	5YR5/6 明赤褐	○	○				○			○		243
161	B4	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○						○	○			160
162	E2	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○									242
163	E2	Ⅷ	沈線文　側面撚糸文 ナデ	ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	○	○						○	○		301
164	E4	Ⅷ	沈線文　撚糸文	ナデ	5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○						○			302
165	B4　C2　C4　D3　E2　E3　F4	Ⅷ	沈線文　撚糸文　ナデ	ナデ	5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	○						○	○	○		349
166	C3	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/6 褐	○	○							○		314
167	E2　E3	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	丁寧なナデ	7.5YR3/2 黒褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○						○	○	ススト付着	320
168	H4	Ⅷ	縄文　沈線文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○			○		○	○		○	ススト付着	76
169	H4	Ⅷ	口縁刺突文　ナデ　キザミ	剥離	10YR5/3 にぶい黄褐	—	○			○		○					77
170	H4		縄文　沈線　ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR3/2 黒褐	○			○		○	○				78
171	B4	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○						○	○		270
172	B5	Ⅷ	撚糸文　ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○	○					○	○	○		335
173	C6　D6	Ⅷ	沈線文　縄文　ナデ	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y3/1 黒褐	○	○					○	○	○		325
174	D6	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/6 明赤褐	○	○		○		○	○				333
175	C4　F2-3	Ⅷ	撚糸文　ナデ	ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○					○			○		332
176	B3	Ⅷ	撚糸文　沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○						○	○		161
177	B6	Ⅷ	刺突文　キザミ	丁寧なナデ　丁寧なナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙	○	○				○					252
178	D3　C3　H3-3	Ⅷ	刺突文　ナデ	丁寧なナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	○	○					○				310
179	C5	Ⅷ	刺突文　ナデ	丁寧なナデ　ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○						○		ススト付着	239
180	B4	Ⅷ	刺突文　ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	5YR6/4 にぶい橙	○	○	○		○	○					306
181	E4　C6	Ⅷ	刺突文　口縁文　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄褐	○			○			○		○	黒変あり	295
182	E4	Ⅷ	刺突文　キザミ　ナデ	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄	○			○							248
183	E4　D2	Ⅷ	刺突文　キザミ　ナデ	ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/4 にぶい黄褐				○		○	○		○		247
184	D6	Ⅷ	刺突文　ナデ後キザミ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○					○				251
185	D2	Ⅷ	刺突文　キザミ　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○			○						ススト付着	297
186	G4	Ⅷ	刺突文　ナデ　キザミ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○							○		260
187	C4	Ⅷ	刺突文　ナデ後キザミ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐				○							250

番号	出土地	出土層位	文様及び調整		色調		胎土								備考	実測No.
			外面	内面	外面	内面	石英	雲母	角閃石	金雲母	鉱物片	輝石	白色鉱物	黒色鉱物	赤色鉱物		
188	C3	Ⅷ	貝殻押引文　ナデ	ナデ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/3 オリーブ褐	○					○					245
189	C3　D3　C4　F3　E3	Ⅷ	刺突文列点　ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	○	○	○					○	○		267
190	H4　C4	Ⅷ	刺突文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○			○							254
191	C3	Ⅷ	刺突文　ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○				○		○			309
192	H2		貝殻刺突文　沈線文　ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○						○			152
193	C3　H4-2	Ⅷ	刺突文　ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	2.5Y7/4 浅黄	○	○								波状口縁	308
194	C5	Ⅷ	貝殻文　ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐				○						スス付着	298
195	C 4　B4	Ⅷ	貝殻押引文　ナデ	ナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	○	○							○		185
196	一区南		貝殻押引文　ナデ	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○					○				192
197	H4	Ⅷ	貝殻刺突文　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	○	○						○	○		268
198	C2	Ⅷ	貝殻押引文　刺突文　キザミ　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/3 にぶい褐	○		○	○		○				波状口縁	200
199	D3	Ⅷ	貝殻文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○						○				193
200	B5	Ⅷ	貝殻押引文　ナデ　キザミ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 黄橙	○		○								195
201	H4	Ⅷ	貝殻押引文　ナデ	丁寧なナデ	7.5YR5/4 にぶい橙	5YR4/4 にぶい赤褐	○	○					○				318
202	C6	Ⅷ	貝殻押引文　キザミ　ナデ	丁寧なナデ　工具ナデ	5YR6/6 橙	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○		○						黑斑あり	190
203	D6	Ⅷ	貝殻押引文　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR4/2 灰黄褐	○		○							波状口縁　スス付着	201
204	F2	Ⅷ	貝殻押引文　ナデ	丁寧なナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○			○						スス付着	204
205	C4	Ⅷ	貝殻文　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○										194
206	D6	Ⅷ	貝殻文　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄橙	○			○							187
207	D6	Ⅷ	貝殻文　ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○					○				胎土に黑曜石を含む	199
208	H3	Ⅷ	貝殻文　ナデ　キザミ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○							○			207
209	H4　E4	Ⅷ	貝殻押引文　ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR4/2 灰褐	○	○				○					198
210	C4	Ⅷ	貝殻刺突文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○									205
211	D6	Ⅷ	貝殻刺突文　ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/3 にぶい黄褐	○			○			○	○	○		181
212	C3	Ⅷ	貝殻条痕文　貝殻押引文　燃糸文　沈線文　ナデ　貝殻キザミ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR7/4 にぶい橙	○	○	○			○					232
213	H4	Ⅷ	貝殻条痕文　キザミ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○										210
214	H4　B3	Ⅷ	沈線　ナデ　キザミ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○										209
215	H4　H4-2	Ⅷ	貝殻押引文　貝殻条痕文　ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/3 にぶい黄褐	○			○			○				159
216	C3	Ⅷ	貝殻条痕文　貝殻押引文　ナデ	ナデ　工具ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○			○							215
217	C6	Ⅷ	貝殻刺突文　貝殻条痕文　沈線　ナデ	ナデ　指ナデ	10YR6/6 明黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐				○						スス付着	218
218	E3	Ⅷ	ハケ目　沈線文	ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○			○							289
219	G3	Ⅷ	ハケ目　沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	○			○							293
220	E3	Ⅷ	ハケ目　沈線文　ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○			○							292
221	E4　F4	Ⅷ	沈線　貝殻条痕文　ナデ	ナデ	5YR6/6 橙	7.5YR5/3 にぶい褐				○						黑斑あり	219
222	E4	Ⅷ	ハケ目　沈線文　ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○			○							291
223	C6	Ⅷ	刺突文　沈線　ナデ	ナデ	5YR6/6 橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○			○							139
224	F3　E2	Ⅷ	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○			○							140
225	F3	Ⅷ	ナデ	工具ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○		○								141
226	C 4	Ⅷ	刺突文　ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	○			○							203
227	G2	Ⅷ	刺突文　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○					○				272
228	E4	Ⅷ	刺突文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○		○							266
229	C4	Ⅷ	刺突文　ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5Y にぶい褐 5/4	○	○				○			○		305
230	C6　D6	Ⅷ	貝殻刺突文　貝殻条痕文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐				○							217
231	1区表土		貝殻刺突文　沈線文　ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○	○					○		○		155
232	H4	Ⅷ	沈線文　ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○	○				○				83
233	C6	Ⅷ	貝殻条痕文　ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR4/6 赤褐				○			○				37
234	C6	Ⅷ	条痕文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○							○		156
235	B6　C3　E3	Ⅷ	沈線文　ナデ	工具ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	○	○						○			331
236	H4		貝殻押引文　ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○					○	○	○			80
237	H4		沈線文　ナデ	ナデ	5YR5/6 明赤褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○				○			○		84
238	H4		沈線文　ナデ	ナデ	5YR5/6 明赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○				○		○	○		82
239	H4		沈線文　燃糸文　ナデ	ナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/4 にぶい褐		○					○	○	○		347

番号	出土地	出土層位	文様及び調整		色調		胎土								備考	実測No.
			外面	内面	外面	内面	石英	輝石	角閃石	金雲母付	褐鉄鉱	軽石	白色鉱物	黒色鉱物	赤色鉱物		
240	H4-4 カクラン		貝殻刺突文 貝殻条痕文 ナデ	工具ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい橙	○					○					197
241	C 4	Ⅶ	貝殻条痕文 貝殻文 キザミ ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR4/2 灰黄褐				○							191
242	E4 F4	Ⅶ	沈線 貝殻条痕文 キザミ	指ナデ ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○			○							216
243	E4	Ⅶ	貝殻条痕文 貝殻押引文 キザミ ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○										214
244	C3	Ⅶ	沈線 ナデ	ナデ	10YR4/1 褐	10YR6/2 灰黄褐	○	○									147
245	C6	Ⅶ	沈線 ナデ キザミ	ナデ	7.5YR7/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙				○							212
246	C4	Ⅶ	沈線文 ナデ	ナデ	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR6/6 橙	○					○	○	○	○		344
247	カクラン		貝殻刺突文 沈線文 ナデ	ナデ	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR6/6 橙	○	○				○	○	○			343
248	C6	Ⅶ	沈線文 ナデ	工具ナデ	5YR6/4 にぶい橙	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○						○			128
249	C4 C3	Ⅶ	貝殻条痕文 撚糸文 キザミ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○						○	○	スス付着	132
250	H4-1	Ⅶ	貝殻条痕文 ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○			○			○	○	○		173
251	E3-1		撚糸文 貼付突起	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○					○	○	○		180
252	C2	Ⅶ	撚糸文 突帯	ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	○	○	○				○	○	○		131
253	H4	Ⅶ	撚糸文 ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR4/4 にぶい赤褐	○	○		○		○			○	スス付着	228
254	H4	Ⅶ	沈線 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐											211
255	C4	Ⅶ	沈線文 ナデ	刺突文 ナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR6/6 橙	○					○	○	○	○		143
256	C6	Ⅶ	刺突文 沈線文 ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○	○	○			○	○	○	○	スス付着	269
257	B5 C3	Ⅶ	沈線文 貝殻刺突文 ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○	○				○		○			304
258	B4 E3	Ⅶ	沈線文 貝殻刺突文 ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○	○						○			303
259	D6 F3	Ⅶ	ナデ	工具ナデ	7.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	○	○							○		341
260	G3 E4	Ⅶ	ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/3 にぶい褐	○	○	○					○	○		346
261	F4 F3 F4-1 E4	Ⅶ	ナデ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○				○	スス付着	345

第６表　縄文時代早期包含層出土石器観察表

番号	出土地	出土層位	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	委託No.
262	C4	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（桑ノ木津留）	(1.60)	(0.90)	(0.33)	(0.30)	鏃型鏃・先端～右脚部欠損	②-17
263	F3	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.40	(1.45)	0.30	(0.30)	脚部欠損・鏃型鏃	②-16
264	F3	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.33	1.32	0.33	0.30		15
265	F5	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石	(1.95)	(1.40)	0.40	(0.70)	鏃型鏃・脚部欠損	②-18
266	F4	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石	(2.20)	(1.15)	0.40	(0.50)	鏃型鏃　脚部欠損	②-61
267	H5-2		打製石鏃	黒曜石	(2.30)	(1.05)	0.50	(1.10)	鏃型鏃　脚部欠損	②-62
268	E3	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石	(1.65)	1.56	0.38	(0.60)	先端部欠損	10
269	カクラン		打製石鏃	黒曜石	4.33	(2.94)	0.62	(4.80)	脚部欠損・鏃型鏃	3
270	E3	Ⅶ	打製石鏃	チャート	1.95	1.70	0.35	0.70	鏃型鏃	②-21
271	E3	Ⅶ	打製石鏃	チャート	(1.90)	(1.40)	0.30	(0.50)	鏃型鏃・脚部欠損	②-19
272	I4	Ⅶ	打製石鏃	チャート	(2.15)	(1.20)	(0.31)	(0.50)	鏃型鏃・脚部欠損	②-20
273	D2	Ⅶ	打製石鏃	チャート	(2.25)	(1.70)	0.35	(1.10)	鏃型鏃　脚部欠損	②-63
274	E4	Ⅶ	打製石鏃	チャート	(2.53)	1.90	0.43	(1.50)	先端部欠損	1
275	C5	Ⅶ	打製石鏃	チャート	2.20	(2.05)	0.42	(1.40)	脚部欠損	8
276	F3	Ⅶ	打製石鏃	チャート	3.15	(2.27)	0.58	(2.30)	脚部欠損	12
277	B6	Ⅶ	打製石鏃	チャート	1.40	1.64	0.40	0.60		14
278	C6	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（桑ノ木津留）	1.71	1.50	0.41	0.70	凹基鏃	②-32
279	F3	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（桑ノ木津留）	1.50	0.80	0.25	0.20	凹基鏃	②-33
280	D2	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（桑ノ木津留）	(1.75)	(1.20)	0.40	(0.60)	凹基鏃　先端部・脚部欠損	②-64
281	C6	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.05	1.15	0.25	0.20	凹基鏃	②-22
282	B5	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.55	1.20	0.40	0.40	凹基鏃	②-23
283	B6	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.40	1.00	0.20	0.20	凹基鏃	②-24
284	H4	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	0.92	1.18	0.30	0.20	凹基鏃	②-25
285	B5	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.89	1.33	0.29	0.50	凹基鏃	②-26
286	G3	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.85	1.35	0.35	0.60	凹基鏃	②-29
287	F3	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.95	1.49	0.40	0.60	凹基鏃	②-30
288	E3	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	2.00	16.90	0.40	1.00	凹基鏃	②-31
289	B5	Ⅶ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	(1.60)	(1.35)	0.33	(0.50)	凹基鏃　脚部欠損	②-27

番号	出土地	出土層位	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考	委託No.
290	I4	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	(1.79)	(1.60)	0.34	(0.70)	凹基鏃　脚部欠損	②-28
291	C3	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.84	1.37	0.37	0.60		7
292	B5	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石	1.60	1.50	0.53	0.80	凹基鏃	②-34
293	E4	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石	1.10	1.15	0.38	0.20	凹基鏃	②-36
294	F3	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石	1.55	1.25	0.35	0.50	凹基鏃	②-37
295	G3	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石	(1.60)	(1.25)	0.30	(0.40)	凹基鏃　脚部欠損	②-35
296	C4	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石	1.26	1.40	0.27	0.30		6
297	F4	Ⅷ	打製石鏃	チャート	1.35	1.65	0.40	0.50	凹基鏃	②-39
298	H4	Ⅷ	打製石鏃	チャート	1.70	(1.30)	0.42	(0.70)	凹基鏃　脚部欠損	②-38
299	I4	Ⅷ	打製石鏃	頁岩	1.60	1.35	0.40	0.50	凹基鏃	②-40
300	I5	Ⅷ	打製石鏃	粘板岩	1.95	1.40	0.21	0.60	凹基鏃　（その他）	②-42
301	G4	Ⅷ	打製石鏃	安山岩	(1.82)	(1.26)	0.26	(0.60)	凹基鏃　脚部欠損	②-41
302	C6	Ⅷ	打製石鏃	玉髄	(1.50)	1.40	0.45	(0.80)	凹基鏃　先端部欠損	②-65
303	B4	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.25	1.29	0.34	0.30	平基鏃	②-43
304	F3	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	(1.52)	(1.55)	0.44	(0.60)	平基鏃　脚部欠損	②-66
305	G4	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	(1.88)	1.40	0.57	(1.00)	平基鏃　先端部欠損	②-67
306	E3	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石	(1.25)	(1.30)	0.30	(0.40)	平基鏃　脚部欠損	②-44
307	G4	Ⅷ	打製石鏃	他黒曜石	1.55	1.35	0.32	0.50	平基鏃	②-68
308	E3	Ⅷ	打製石鏃	チャート	1.28	1.30	0.30	0.40	平基鏃	②-45
309	E5	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（桑ノ木津留）	(1.40)	1.60	0.42	(0.60)	剥片鏃　先端部欠損	②-55
310	C5	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（桑ノ木津留）	(0.85)	(0.98)	0.15	(0.20)	剥片鏃　脚部欠損	②-56
311	B6	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.15	1.00	0.32	0.30	剥片鏃	②-46
312	C2	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.49	1.30	0.30	0.40	剥片鏃	②-47
313	C3	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.49	1.16	0.35	0.50	剥片鏃	②-48
314	F5	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.25	1.40	0.30	0.30	剥片鏃	②-49
315	F3	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.46	1.20	0.32	0.40	剥片鏃	②-50
316	B4	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	2.00	1.30	0.45	0.70	剥片鏃	②-51
317	D2	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.85	1.50	0.30	0.80	剥片鏃	②-52
318	C6	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	1.65	1.10	0.30	0.40	剥片鏃	②-54
319	H4	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石（姫島）	(1.10)	(1.10)	0.20	(0.20)	剥片鏃　脚部欠損	②-53
320	C5	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石	1.30	1.10	0.30	0.30	剥片鏃	②-57
321	H4	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石	2.10	1.35	0.45	0.90	剥片鏃	②-70
322	B3	Ⅷ	打製石鏃	黒曜石	(2.00)	(1.60)	0.30	(0.70)	剥片鏃　脚部欠損	②-69
323	D6		打製石鏃	チャート	2.20	1.70	0.58	2.00	剥片鏃	②-59
324	C3	Ⅷ	打製石鏃	チャート	(1.30)	(0.95)	0.30	(0.40)	剥片鏃　先端部欠損　脚部欠損	②-58
325	E3	Ⅷ	打製石鏃	砂岩	(1.95)	(1.58)	(0.45)	(1.00)	基部欠損	13
326	B4	Ⅷ	トロトロ石器	チャート	2.07	1.90	0.40	1.20		2
327	C5	Ⅷ	石匙	頁岩	3.86	1.80	0.70	2.90		5
328	B5	Ⅷ	スクレイパー	チャート	3.96	1.51	0.86	3.50		9
329	H2	Ⅷ	スクレイパー	安山岩	6.78	3.25	1.40	24.90		4
330	H3	Ⅷ	スクレイパー	安山岩	10.40	5.10	1.40	84.00		②-13
331	C5	Ⅷ	スクレイパー	頁岩	5.45	2.40	1.50	12.20		②-14
332	E4	Ⅷ	スクレイパー	砂岩	8.26	5.48	1.90	84.50		③-8
333	F3	Ⅷ	二次加工薄片	チャート	3.00	2.10	0.80	2.80	石鏃？	②-60
334	H4	Ⅷ	石鏃？	砂岩	3.31	2.85	1.22	8.20		11
335	F3	Ⅷ	石斧調整薄片	安山岩	(3.25)	(2.55)	(0.45)	(4.20)	下半部裏面欠損	②-15
336	E4	Ⅷ	縦石刃	黒曜石	1.95	0.80	0.15	0.20		②-12
337	D6	Ⅷ	磨石	霧島山系花崗岩	9.63	8.70	5.10	626.00		③-9
338	E3	Ⅷ	磨石	砂岩	6.20	4.60	3.20	126.00		③-13
339	D6	Ⅷ	磨石	霧島山系花崗岩	7.10	5.90	3.65	119.40		③-15
340	E3	Ⅷ	磨石	霧島山系花崗岩	(6.1)	(5.9)	(5.0)	(207.9)	3/4欠損	③-29
341	D2	Ⅷ	磨石	霧島山系花崗岩	10.20	9.40	5.40	747.90		③-12
342	H2	Ⅷ	磨石	霧島山系花崗岩	10.00	7.90	5.30	634.20		③-11
343	E4	Ⅷ	磨石	砂岩	6.90	6.10	4.60	275.70		③-19
344	C4	Ⅷ	磨石	砂岩	9.00	7.30	5.15	479.50		③-10
345	G4	Ⅷ	磨石	砂岩	8.05	6.30	3.70	272.80		③-25
346	E3	Ⅷ	磨石	砂岩	6.90	6.70	3.20	206.40		③-18
347	G3	Ⅷ	磨石	砂岩	9.20	7.50	4.00	455.10		③-14
348	カクラン	Ⅷ	磨石	砂岩	11.40	7.50	3.80	475.70	被熱痕あり	③-30
349	H2	Ⅷ	磨・敲石	霧島山系花崗岩	9.70	8.50	4.10	563.40		③-17
350	I4	Ⅷ	磨・敲石	砂岩	8.35	7.20	3.00	262.30		③-22
351	H4	Ⅷ	磨・敲石	砂岩	9.70	10.20	4.80	713.90		③-20

番号	出土地	出土層位	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考	委託No.
352	F4	Ⅶ	磨・敲石	霧島山系花崗岩	10.80	8.90	4.60	580.20		③－21
353	一括	Ⅶ	敲石	砂岩	12.70	4.80	2.30	201.50		③－27
354	C3	Ⅶ	敲石	砂岩	（8.7）	3.40	2.24	（103.2）	基部欠損	③－28
355	F4	Ⅶ	敲石	砂岩	10.65	3.85	4.30	205.00		③－23
356	I4	Ⅶ	石皿	砂岩	15.00	11.00	2.90	655.60		③－16
357	F4	Ⅶ	石皿	砂岩	5.90	7.15	2.40	104.80		③－24
358	F3	Ⅶ	石皿	砂岩	（14.6）	（12.0）	（8.2）	（1470）	被熱痕あり	③－31

第３章　牛のスネの調査

第１節　遺物、遺構の分布状況

２区において表土剥ぎの際に牛のスネ火山灰下部層中に礫が確認されたため、調査を行うこととした。遺構は集石遺構が１基と、礫の分布が確認できた。１区は土層堆積が乱れており、牛のスネ火山灰単体での堆積は認められず、同時期と同定できる遺物・遺構は検出されなかった。また３区については、牛のスネ火山灰が２区と同程度堆積していたため人力掘削し、調査を行ったが、遺物・遺構は確認できなかった。

また牛のスネ火山灰中から原位置をとどめて出土した遺物はない。しかし調査区壁に残された造成土中ではあるが、牛のスネブロックが付着した土器が出土している。なお同時期と思われる遺物が谷状地形の土層堆積が乱れている位置から出土しているが、他時期の土器と共伴しているため、第４章にてまとめて掲載している。

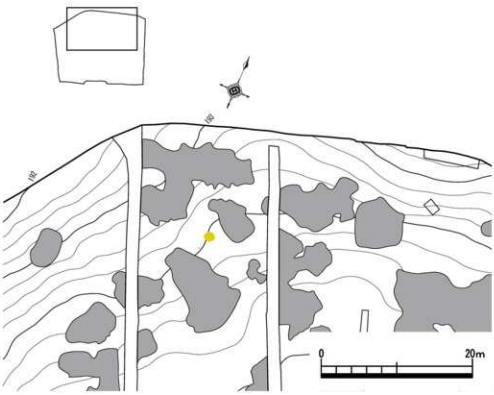
牛のスネ火山灰は青灰色を呈する硬質な火山灰で、乾燥すると砂質になり白色化する。牛のスネ火山灰中の遺物・遺構の判断については、この砂質の白色化した火山灰の付着をもって判断している。その他の土器付着物にアカホヤ火山灰は含まれていなかったため、もともとの出土地点としては土層の乱れがある部分というよりは土層堆積の乱れが少ない地点が原位置であると予想される。

第２節　遺構について

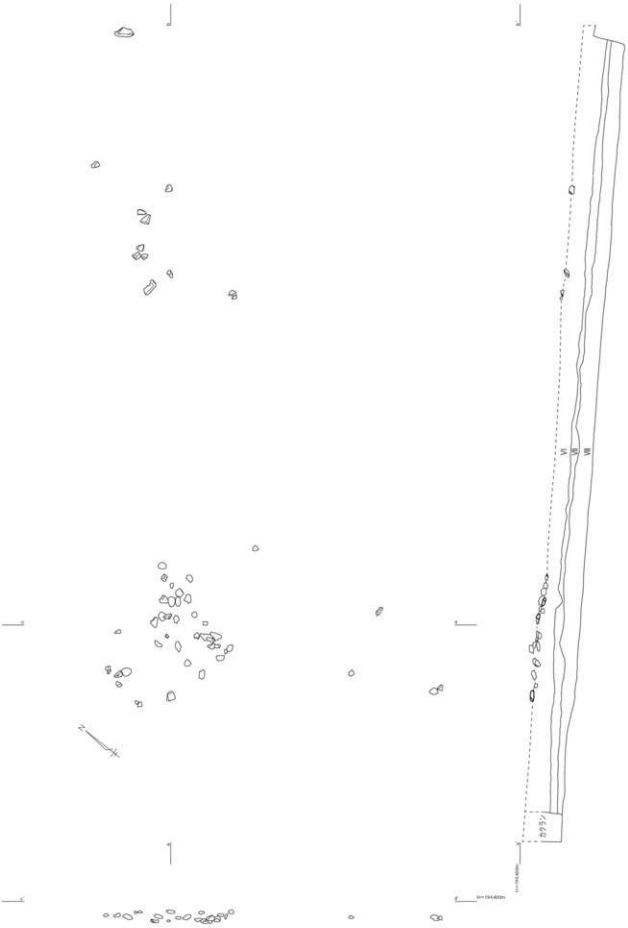
当該層では集石遺構１基が検出された。

SI25

表土剥ぎの際に礫が露出したことにより検出した。掘り込みは持たず、0.9 m× 0.95 mの範囲で平面的に礫が分布している。持ち帰った集石遺構の礫の間から炭化物が見つかり、年代測定を行ったところ



第 60 図　牛のスネ火山灰下部中遺構分布図



第 61 図　牛のスネ火山灰下部中検出遺構実測図（S=1/3）

6375 ± 25 年 BP という結果が出ており、アカホヤ火山灰降下直前に近い時期の集石遺構であると推測される。礫は拳大以下の角礫で砂岩である。遺構に伴う遺物は出土していない。なお下層からは SA1、SI17、24 が検出されている。

第３節　遺物について

前述の通り、いずれも原位置をとどめておらず、造成土中からの出土である。牛のスネ火山灰ブロックが付着しており、同時期のものと考えられるため、ここに掲載する。

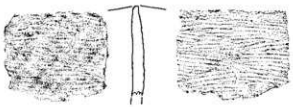
Ⅰ　出土土器について

轟式土器（359 ～ 364）

器形は　外面に縦位に条痕を施し、その上から綾杉文や十字文を施す。
359 は口縁部で横方向に条痕を施す。360 ～ 363 は縦位の条痕後に十字文を施す。360 は口唇部にキザミを持つ。361 は曲線の条痕を持つ。361 に付着していた炭化物からは 6250 ± 30 年 BP という結果が出ている。362 は穿孔を持つ。364 は底部片である。

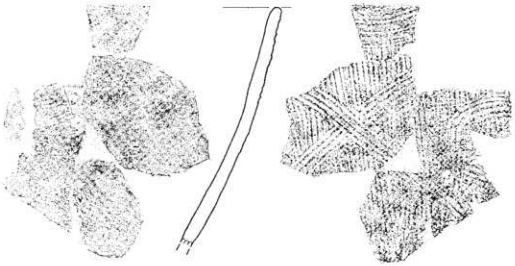
第７表　牛のスネ火山灰付着土器観察表

番号	出土地	出土層位	文様及び調整		色調		胎土								備考	実測No.
			外面	内面	外面	内面	石英	輝石	角閃石	金雲母	磁鉄鉱	軽石	白色鉱物	黒色鉱物	赤色鉱物		
359	Ｇ２のり面		貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○					○		○		42
360	一括		貝殻条痕文　沒線	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○				○			○		黒変あり	44
361	Ｇ１のり面		貝殻条痕文	ナデ	5YR4/6 赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐	○	○				○					41
362	G1		貝殻条痕文	ナデ	5 Y 7/2 灰白	5Y4/2 灰オリーブ	○					○		○		スス付着	43
363	一括		貝殻条痕文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙							○	○	○		46
364	G1		ナデ	貝殻条痕文　ナデ	5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○				○					45

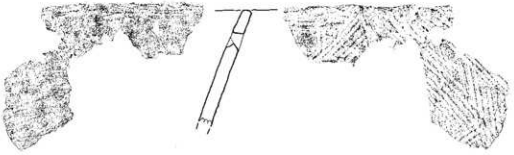


359

360



361



362

363

364

第62図　牛のスネ火山灰付着土器（S=1/3）

第４章　土層混在部の調査

第１節　遺物、遺構の分布状況

１区北側において、二次アカホヤ堆積層の調査後、アカホヤ火山灰を多く含む層を除去したところ、Ⅳ～Ⅸ層が混在する層が検出された。当該地においては、周囲は地形がやや谷状に落ち込んでおり、遺物も自然の作用により流されたものと考えられる。

遺構は確認できなかった。

第２節　遺物について

Ⅰ　出土土器について

押型文土器（365 ～ 368）

365 は口縁部で斜位の楕円押型文を施す。366 は横位～斜位の楕円押型の胴部片である。367、368 は縦位の山型押型文である。

塞ノ神式土器（369 ～ 380）

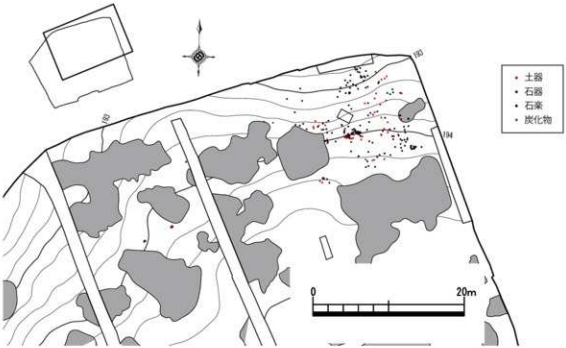
369 ～ 375 は口縁部で貝殻刺突文を施す。372、373 は二重口縁である。376 ～ 379 は胴部片で沈線区画内に撚糸文を施す。380、381 は底部片で沈線を持つ。

沈線等を持つ土器（381 ～ 385）

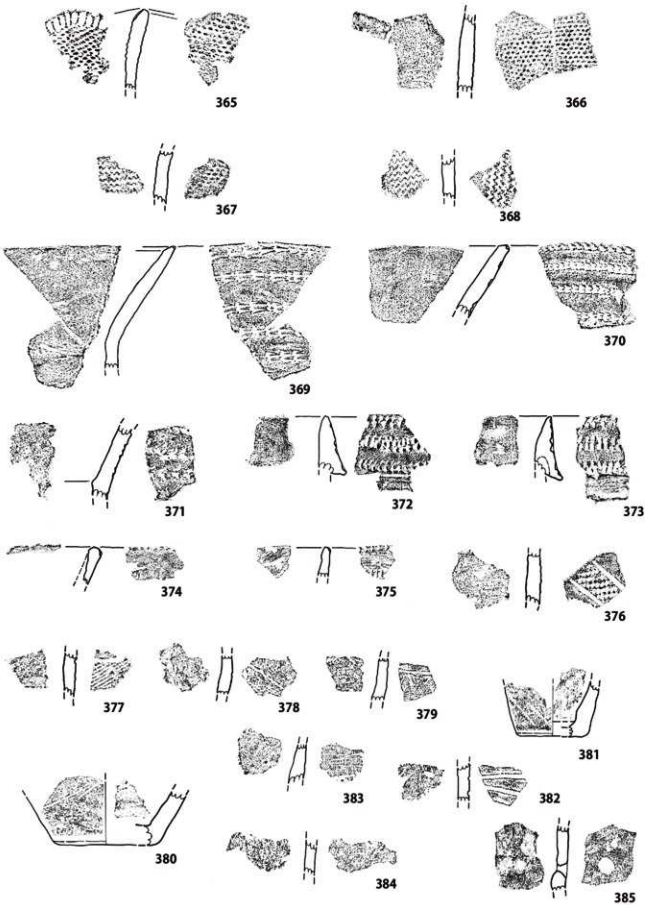
382 は沈線を持ち、丹塗りである。385 は穿孔を持つ。

轟式土器（386 ～ 394）

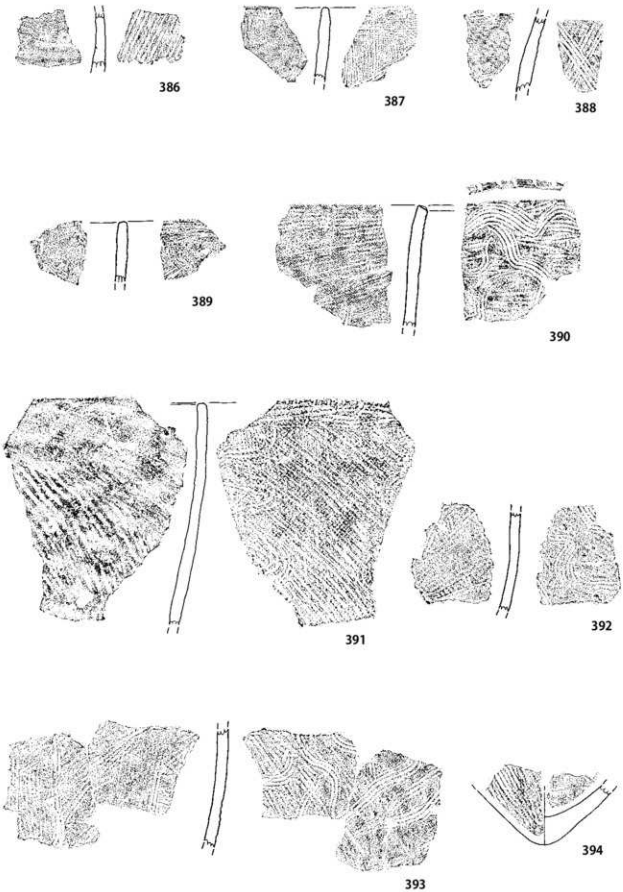
386 ～ 368 は縦位の条痕後に十字文を施す。390､391 は口縁部片である。391 は斜位の条痕を施文後、



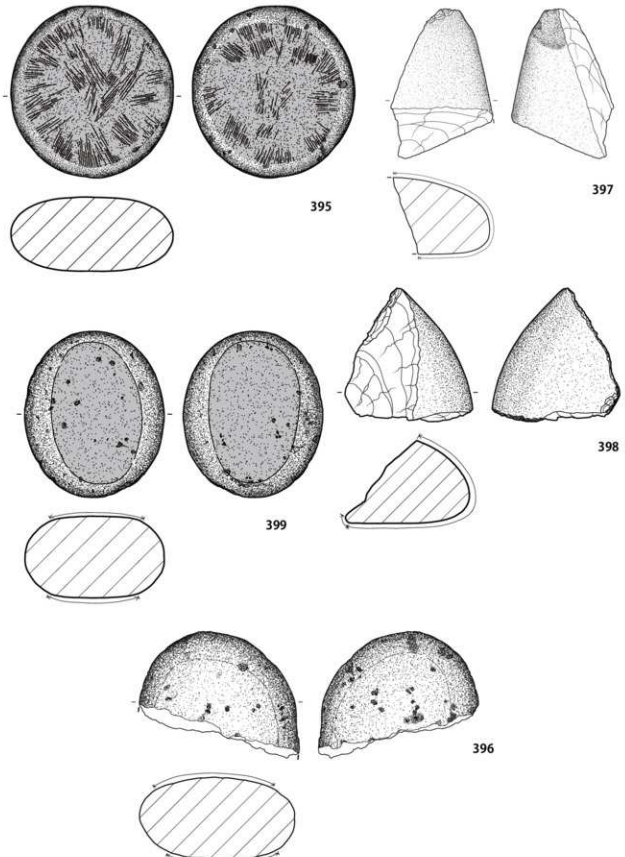
第 63 図　土層混在地区遺物出土状況



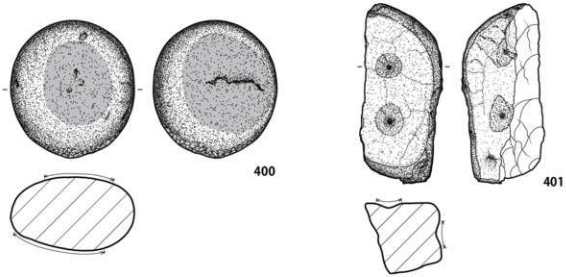
第64図　土層混在地区遺物実測図①（S=1/3）



第 65 図　土層混在地区遺物実測図②（S=1/3）



第 66 図　土層混在地区出土石器①（S=1/2）



第 67 図　土層混在地区出土石器②（S=1/2）

半円状に条痕を施す。、392、393 は羽状に条痕を施す胴部片である。394 は底部片で、尖底である。外面には条痕を施す。

Ⅱ　出土石器について

磨石・敲石（395 ～ 400）

395 ～ 400 は磨石である。398、400 には敲打痕が見受けられ、敲石としても使用されていたと思われる。

凹石（401）

401 は砂岩性の凹石である。凹み部分が並列している。

第８表　土層混在部出土土器観察表

番号	出土地	出土層位	文様及び調整		色調		胎土								備考	実測No.
			外面	内面	外面	内面	石英	輝石	角閃石	金雲母	雲母系	軟石	白色系鉱物	黒色系鉱物	赤色系鉱物		
366	E 1	埋	櫛円押型文	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○						○			17
367	E 1	埋	山型押型文	山型押型文	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○						○	○	○		18
368	E 1	埋	山型押型文	櫛円押型文	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	○	○	○				○				19
369	F3　G1	埋	貝殻押引　ナデ	ナデ	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/4 浅黄	○			○							186
370	H 2	埋	貝殻刺突　ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○				○		○			196
371	I2	埋	貝殻刺突　ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○			○				○			20
372	H 2	埋	貝殻刺突　ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	○	○		○		○		○			39
373	一括	埋	貝殻押型　ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄橙	○	○					○	○			40
374	G 1	埋	貝殻文　貝殻刺突　ナデ	ナデ	2.5 Y 4/2 暗灰黄	2.5 Y 4/2 暗灰黄	○						○	○	○		153
375	H 2	埋	刺突　ナデ	ナデ	2.5YR6/6 橙	5YR6/4 にぶい橙	○							○			35
376	H 2	埋	沈線　撚糸　ナデ	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/3 黄褐	○	○				○				黒変あり	34
377	I2	埋	沈線　貝殻条痕	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	○							○			21
378	I2	埋	沈線　撚糸　ナデ	ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	10YR6/2 灰黄褐	○			○			○	○			22
379	H 2	埋	ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○	○						○			31
380	H 2	埋	沈線　ナデ	ナデ	2.5YR5/6 明褐	7.5YR6/3 にぶい褐	○	○					○	○		丹塗り	36
381	I2	埋	沈線　ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○	○						○			16
382	G1	埋	沈線	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○						○	○	○		32
383	I2	埋	沈線　撚糸　ナデ	ナデ	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y5/3 黄褐	○					○		○			23
384	I2	埋	ナデ	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○				○					33
385	I2	埋	ナデ	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○								○	穿孔あり	26

第９表　土層混在部出土石器観察表

番号	出土地	出土層位	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考	委託No.
395	H2	埋	磨石	霧島山系花崗岩	8.80	7.40	4.30	419.70		③－３
396	H2	埋	磨石	霧島山系花崗岩	(6.7)	(8.5)	(4.3)	(265.4)	下半部欠損	③－６
397	I2	埋	磨石	砂岩	(7.9)	(5.4)	(4.2)	(149.5)	欠損	③－７
398	H2	埋	磨・敲石	砂岩	7.00	6.75	4.50	205.00	敲打痕あり（磨石転用か）	③－５
399	H2	埋	磨石	霧島山系花崗岩	9.08	8.58	3.90	462.30		③－１
400	H2	埋	磨・敲石	砂岩	7.30	6.50	3.90	261.80		③－４
401	H2	埋	凹み石	砂岩	9.50	4.40	4.20	202.50		③－２

第５章　アカホヤ二次堆積層の調査

第１節　遺物、遺構の分布状況

１区の一部にのみアカホヤの二次堆積層が確認され、精査を行った。遺物量は多くないが、曽畑式土器が出土した。なお、当包含層からは塞ノ神式土器も共伴している。土層混在地区（第４章）と同じく自然作用ないし人為的作用が働いた可能性がある。また当該層では樹痕と思われる多くの落ち込みが確認された。そのうち、遺構と断定はできないが、埋土と思われる部分から遺物が出土したものを報告する。遺構測量はすべてトータルステーションで実施した。

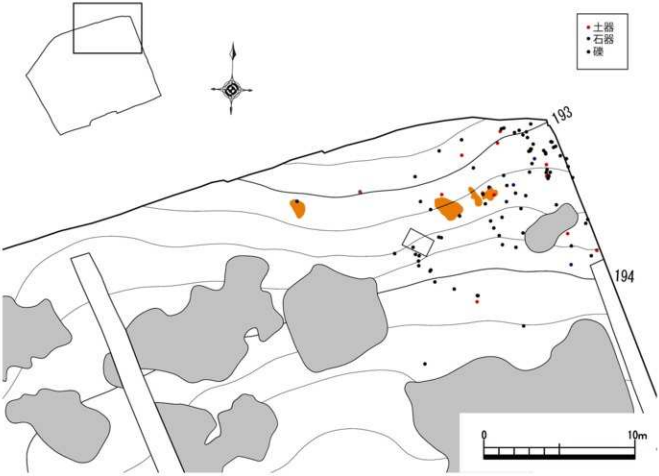
第２節　遺構について

４基の土坑が検出された。検出面はすべてⅣ層上面である。

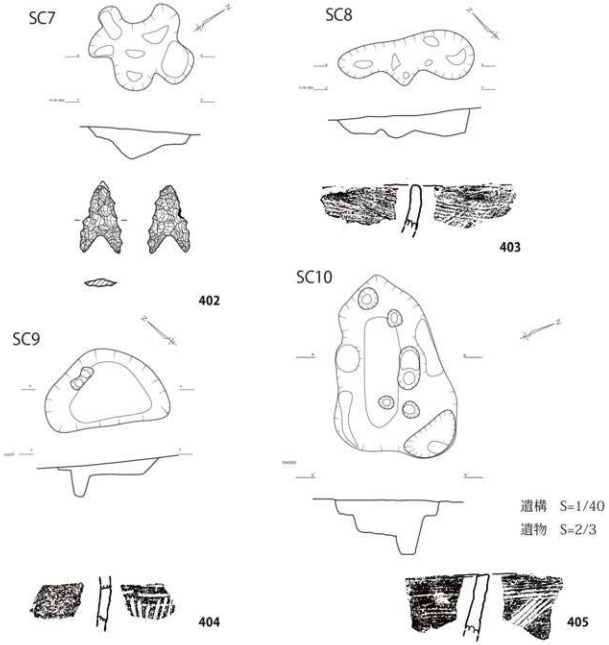
Ⅰ　土坑

SC 7

１m×0.6 mを測る不定形の土坑である。埋土は明褐色土に5㎜以下の橙色軽石を含む。安山岩製で側縁部が鋸歯状の鍬形鏃１点が出土している（402）。



第68図　アカホヤ火山灰二次堆積層上遺構分布図及び遺物分布図



第 69 図　アカホヤ火山灰二次堆積層上検出遺構及び出土遺物実測図（S=1/40、1/3）

SC 8

1 m × 0.46 mを測り楕円形を呈する。埋土は明褐色土に 5㎜以下の橙色軽石を含む。貝殻条痕を持つ土器の口縁部が出土している（403）。

SC9

楕円風の平面で一部分をピット状に深く掘っている。明褐色土に 5㎜以下の橙色軽石を含む埋土であった。曽畑式土器の口縁部片（404）と、黒曜石のチップが出土している。

SC10

1.6 m × 0.93 mを測る楕円風の平面形を呈する。埋土は明褐色土に 5㎜以下の橙色軽石を含む。土器轟 B 式と思われる貝殻条痕を施す土器の口縁部が出土している（405）。

第 10 図　アカホヤ火山灰二次堆積層検出遺構内出土遺物観察表

番号	出土遺構	文様及び調整		色調		胎土									備考	実測No.
		外面	内面	外面	内面	石英	輝石	角閃石	金雲母	磁鉄鉱	軽石	白色鉱物	黒色鉱物	赤色鉱物		
402	SC7	沈線　貝殻条痕	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/3 浅黄橙	○							○			21
403	SC8	貝殻条痕	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/3 にぶい黄褐	○								○	スス付着	12
404	SC9	沈線　条痕　ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○				○			○		14
405	SC10	貝殻条痕　ナデ	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	○	○							○		13

第３節　遺物について

Ⅰ　出土土器について

塞ノ神式土器（406 ～ 409）

406 は口縁～頸部である。貝殻刺突を施す。407･408 は撚糸文を施す。409 は底部付近で、無文である。

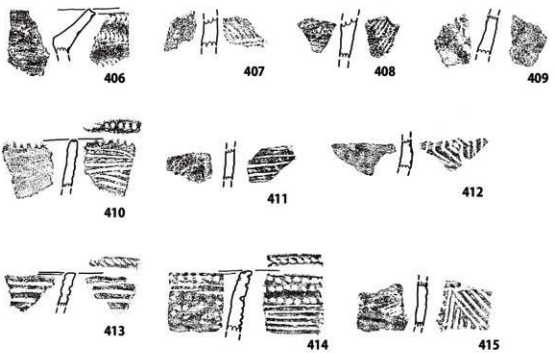
曽畑式土器（410 ～ 415）

410 は口縁部で、外面には沈線、口唇部には刺突文を施す。413 ～ 415 は攪乱土からの出土である。は内外縁の上部に棒状工具による刺突文を施しており、外面下半は横方向の沈線を施す。口唇部を平らに成形している。前－ 14 は縦位及び斜位の沈線を施す。

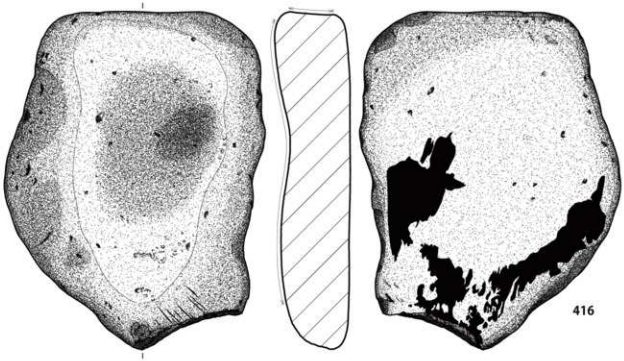
Ⅱ　出土石器について

石皿（416）

砂岩製で、中央部分に凹みを持つ。



第 70 図　アカホヤ火山灰二次堆積層出土土器実測図（S=1/3）



第 71 図　アカホヤ火山灰二次堆積層出土石器実測図 (S=1/3)

第 11 表　アカホヤ火山灰二次堆積層出土土器観察表

番号	出土地	出土層位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石英	輝石	角閃石	金雲母	磁鉄鉱	軽石	白色鉱物	黒色鉱物	赤色鉱物	備考	実測No.
406	I 1-3	Ⅳ'	刺突　ナデ	丁寧なナデ	10YR6/6 明黄褐	10YR6/8 明黄褐	○	○									3
407	I 1-4	Ⅳ'	撚糸　沈線	ナデ	10YR6/6 明黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙		○					○	○			2
408	一括		貝殻条痕	ナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	○		○								4
409	I 2	Ⅳ'	貝殻条痕	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○						○			7
410	H 1-4	Ⅳ'	条痕	ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	○	○					○		○		9
411	I 2	Ⅳ'	沈線	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○	○				○		○		5
412	I 2-4	Ⅳ'	沈線　刺突　ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○							○	○		6
413	一括		沈線文　ナデ	沈線	2.5 Y 7/3 浅黄	2.5Y6/3 にぶい黄	○		○								8
414	一括		刺突　沈線　ナデ	刺突　沈線　ナデ	7.5YR6/4 橙	7.5YR6/4 橙	○	○	○								10
415	一括		沈線　刺突	ナデ	2.5Y6/3 にぶい黄	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○						○			11

第 12 表　アカホヤ火山灰二次堆積層出土石器観察表

番号	出土地	出土層位	種別	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	委託No.
416	6T	Ⅳ'	石皿	砂岩	35.80	27.60	8.10	11400.00		③－26